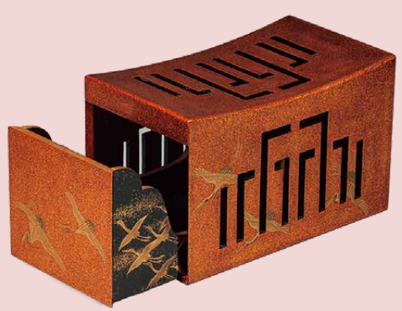
高砂香料工業株式会社

社会・環境報告書 2021

TAKASAGO



Contents

4 トップメッセージ

8 コーポレートビジョン

10 会社概要・財務ハイライト

12 グローバルネットワーク

14 Sustainability マネージメント

20 〈特集〉Our SDGs
海外拠点でのSDGsに
結びつく取り組み

26 社会性報告

52 EHS報告

58 コーポレート・ガバナンス

62 コラム：香りの器
～高砂コレクション®

編集方針

高砂香料グループのサステナビリティ活動をステークホルダーの皆様に知っていただくことを目的に「社会・環境報告書」を作成し情報開示に努めています。
「社会・環境報告書2021」では、高砂香料グループの海外拠点でのSDGsにつながる取り組みを特集しています。その他、ESGの切り口で当社のサステナビリティに関する活動を取り纏めご報告しています。ぜひページをめくっていただけますと幸いです。

■ **報告対象期間**
2020年4月～2021年3月
（一部最新の情報を含む）
■ **報告対象組織**
高砂香料グループ
■ **実績データ集計範囲**
2020年4月～2021年3月
■ **参照したガイドライン**
GRIスタンダード
■ **次回発行時期**
2022年11月を予定

表紙の香炉について

1. ロイヤルウースター　色絵金彩透彫ポプリポット 19世紀
2. 楼閣山水蒔絵香箪笥 明治時代 19世紀
3. 赤絵式アリュバロス香油瓶 前7 世紀 ギリシア
4. ウェッジウッド 女神天使文香水瓶 18世紀後半
5. 樂弘入　緑釉龍虎香炉　明治～大正時代 19～20世紀
6. ドーム兄弟　矢車菊文香水瓶 1900年頃
7. 色絵人物文香炉 江戸時代後期
8. 被せガラス金彩草花文香水瓶 19世紀
9. ルネ・ラリック　香水瓶「りんごの花」1919年
10. エミール・ガレ　草花文香水瓶 1900年頃
11. 両手付紐巻装飾香油瓶 4- 6世紀 東地中海沿岸域
12. 鶴蒔絵香枕 江戸時代 18世紀
13. マルク・ラリック　香水瓶「喜びの心（ニナ・リッチ社）」1942年
14. サムソン　色絵香水瓶「乗馬」19世紀

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのために

**ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、高砂香料グループの活動をより深く理解していただくために、さまざまな媒体による情報発信に努めています。
より詳細な社会・環境活動やデータはウェブサイトでご紹介しています。**

社会・環境報告書

サステナビリティにおける活動報告や目標をステークホルダーの皆様におつたえする報告書を毎年発行しています。

Sustainability Report

2021年に発行したサステナビリティレポート(英文)はGRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダードに準拠した報告内容となっています。

ウェブサイト

http://www.takasago.com

事業活動や国内外の最新情報を随時アップロードしています。

会社案内

創業からの歴史や事業展開、また香炉をはじめとする高砂コレクション®について紹介しています。

THE TAKASAGO TIMES

当社発行の技術情報誌です。香りの文化と香料や周辺技術に関する幅広い情報を提供しています。

安全・安心な製品を通じて、豊かな生活づくりに貢献します。

当社の主要な事業は、フレーバー、フレグランス、
アロマイングリディエンツ、ファインケミカルの４部門で構成されております。
高品質かつ信頼いただける製品・サービスを通して、
人や社会、地域環境との調和を図りつつ、
お客様、お取引先様、従業員、地域・社会、株主・投資家等、
ステークホルダーの豊かな暮らしに
貢献し続けてまいります。

Flavors

We design to taste…

Fragrances

Creativity, inspired by nature
and powered by science

Aroma Ingredients

Endless Possibility

Fine Chemicals

Green Chemistry

Top Message

Q. 2020年度を振り返り、営業状況の総括をお聞かせください。

2020年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の拡大により、世界的に景気は大きく低迷しました。このような中、高砂香料グループの売上高は前期比1.4%減となりました。部門別に見ますと、フレグランス部門において芳香剤向け、ハンドソープ向け等が好調に推移した一方で、フレーバー部門においては当社および国内子会社の飲料向け等が低調に推移しました。また、アロマイングリディエンツ部門では主力品メントール等が、ファインケミカル部門でも医薬品中間体が低調に推移しました。

利益面では、営業利益は同136%増となり、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益も増益となりました。原料価格が前期よりも低下したことや、海外子会社のフレグランス部門が好調に推移したこと、加えて感染拡大の影響から一部経費が減少したことが増益に寄与いたしました。

2021年度は、感染拡大抑制と経済活動推進のバランスを模索する中で、緩やかながらも改善基調を辿ると見ていますが、依然として不確実性の高い状況が続くものと思われます。高砂香料グループの売上高は、当期比0.4%増でほぼ横ばいと見込んでおります。利益面は、感染予防措置で当期は減少した一部経費が戻ることや、将来成長のための研究開発費、販売管理費が増加することにより減益を予想しております。

Q. 創業精神、企業理念、Vision 2040についてご説明お願いいたします。

「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という文言は、高砂香料グループにおける普遍的な原則であり、創業から100年にわたり、我々の支えとなる「企業理念」でしたが、このたび創業100周年という節目を迎え、「企業理念」には、「高砂香料らしさ」を盛り込み、「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」とし、今までの企業理念は「創業精神」といたしました。

これらの「創業精神」「企業理念」を基に、先ほど申しましたグローバルでの全従業員が共感し、目指すことのできる、20年後2040年の高砂香料グループの「ありたい姿」が*Vision 2040*にあたります。

*Vision 2040*には「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンにしていますが、一人ひとりが輝ける豊かな会社の実現を目指す上で、常に相手の立場に立ち、ともに考えることを「やさしさ」と表現しています。人々が身体的、精神的、社会的にも良い状態でいられる未来を創造する会社でありたいと思っております。もちろん、人の健康への配慮、地球環境への配慮なくして製品作りはあり得ません。

スローガンに続く4つの項目は、それらを具体的に表したものであり、それぞれ、企業としての姿勢、社員としての姿勢を示しています。

Q. 2021年度から始まる3ヵ年中期経営計画についてご説明お願いいたします。

創業101年目となる2021年度から始まります3ヵ年中期経営計画は、*New Global Plan-1（NGP-1）*と名づけました。*NGP-1*は「3つの基本方針」、「5つの柱」「7つの重点課題」から成り立っています。

「3つの基本方針」は、「海外の成長促進」「国内の利益改善」「サステナビリティの推進」です。以前は、海外での利益が安定しない中、日本が安定した利益を生み出すという利益構造でしたが、近年は、海外拠点が売上高、営業利益ともに安定的に成長してきており、グループ全体の業績を支えています。*NGP-1*期間においても、海外市場での成長を目指してまいります。国内は、大きな市場の拡大は見込めず、近年は利益面で厳しい状況が続いております。しかし、海外での成長が著しいとはいえ、今なお売上高全体の4割以上を国内の売上が占めていることから、安定した収益を生み出す基盤としての役割を担う地域となるべく、利益改善を目指してまいります。また、*Vision 2040*を実現し、長期的に事業の成長を目指す観点から、「サステナビリティの推進」を基本方針の一つにしています。

「5つの柱」は、前の中期経営計画と同じ項目になりますが、前の中期経営計画では、2年目に原料高騰の影響を大きく受けたことや、3年目はコロナ禍で、十分な対応、課題解決までには至らなかった事情もあり、*NGP-1*でもこれらの柱を軸に継続して取り組んでまいります。

「7つの重点課題」は「3つの基本方針」「5つの柱」を受けて、*Vision 2040*にに向けて新たに進めていくべきこと、前中期経営計画*One-T*から引き続き、*NGP-1*において深化させるべきこと、を選びました。

高砂香料グループは新たな企業理念を基に、*Vision 2040*を掲げてさらに成長してまいります。

Q. 「サステナビリティの推進」を基本方針に据えられています。取り組む課題について教えてください。

高砂香料グループのサステナビリティビジョンですが、経済性、環境性、社会性の三位一体を掲げています。事業の成長とともに、環境面、社会面においても「社会の一員としての責任を果たす」という当社グループの基本的な姿勢を表しています。

先の中期経営計画*One-T*において土台を整備し、今後10年間の行動計画を*Sustainability 2030*として纏めました。*NGP-1*ではその計画に沿って取り

組みを進めてまいります。

サステナビリティに関する課題としては、先ず世界的な気候変動問題への対応が挙げられます。2020年、TCFD提言に沿った当社グループの方針（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の４項目）を公表しました。リスク管理においては、ここ数年日本でも気候変動が要因と考えられる豪雨災害が多発しており、グループ全社的に強い危機感を持って、安全対策やBCP対応を進めています。豪雨災害により、地域の社会インフラが被害を受けることも多く、水の供給停止や物流の寸断といった問題も発生します。原料調達においても、ハリケーン、サイクロン、寒波などの被害の甚大化によって農作物への影響もあり、香料原料の供給不足や価格高騰などを引き起こします。これらはビジネスに直結する大きなリスクであると捉えています。緩和策としてはCO_2排出削減活動を強化することなどが挙げられます。CO_2排出削減については、2019年実績に対し、2030年度にScope1＋Scope2において27.5%、Scope3において13.5%の削減目標を設定しました（2021年５月にSBTi認定取得）。Scope1＋Scope2については、再生エネルギーの導入、エネルギーセービングプログラムや設備機器の適切なメンテナンスなどによる排出削減活動を進めていきます。当社グループの排出量のうち最も大きな割合を占めるScope3においては、原材料調達だけでなく、物流関係などにおいてもお取引先様と協働し、排出削減に努めてまいります。低炭素化に向けての戦略においては、グリーンケミストリーが中心となりますが、バイオ技術を活用した新素材の開発や連続フロープロセスを用いた合成などを通じ、新たなビジネスの機会を創出していきたいと考えています。当社の有する技術とオープンイノベーションにより、革新的な商品開発を行っていきます。

人権も世界的に大きな課題です。*One-T*期間に、グループ人権ポリシーを策定し、人権デューデリジェンスの実施要項も構築いたしました。人権デューデリジェンスは人権侵害の防止のためのプロセスとなりますが、２年前より実施し、当社グループにおいて人権侵害がないことを確認しています。欧米諸国では人権に関わる規制が強化されています。世界の動きを注視しながら、当社グループ内だけでなく、ビジネス活動におけるサプライチェーンにおいても、お取引先様と価値観を共有し人権侵害防止に努めてまいります。

CO_2排出削減の強化においても、人権侵害の防止においても、サプライチェーンにおける協働が欠かせません。持続的な成長と社会課題の解決に資する事業活動を展開する上で、当社グループでは、原材料や事業に必要なサービス等の調達においては「コーポレート調達ポリシー」に基づいて責任ある調達に取り組んでおります。お取引先様との相互理解、連携をより確実にして推進したく、2020年、要望事項をまとめ直しサプライヤー行動規範を改定いたしました。お取引先様のサプライチェーンにおいても、当社グループ行動規範が適切に共有されるよう働きかけてまいります。

以上、環境、社会面についてご報告させていただきましたが、ガバナンスにおいてはITセキュリティの向上が挙げられます。サイバー攻撃が頻発している中、当社グループでもITセキュリティをグローバルで強化しています。ハード面の対策では、攻撃者の侵入を防ぐツールやデバイス認証を導入、ソフト面では種々のトレーニングを実施することで社員への啓蒙活動を継続的に行っています。

他にもさまざまな課題がありますが、*NGP-1*ではグループ全社的にサステナビリティを推進してまいります。

Q. One-T最終年度に始動したグローバルSAPプロジェクトについて、現在の進捗と今後の展開について教えていただけますか。

One-Takasagoに向けた施策の一環として、2020年初めから、基幹系システムのグローバル統合を目的にグローバルテンプレート開発に着手しました。しかしながら、開始直後に新型コロナウイルス（COVID-19）拡大の影響から、プロジェクトメンバーが一堂に会して作業することが出来なくなり、リモートワークでの作業となりました。タイムゾーンの異なるメンバーとの日々の打合せや、直接会って話せないもどかしさを抱えつつ試行錯誤しながら作業には苦労されたことと思います。一方、リモートワークということもあり、さまざまな事情からプロジェクトに参加できないと諦めていた方々をも含め、逆にプロジェクトメンバーを拡大し、より多くの人たちに議論に参加して貰えたことは良かったと思います。打合せをビデオに録り、参加できない人はその録画を視聴するなど、リモートワークツールを駆使し時間差を埋めるように努めています。今までのところプロジェクトは順調に推移していると考えています。

2021年半ばにグローバルテンプレートの開発作業を終え、その後海外主要拠点への導入作業へ移っていきます。このプロジェクトを通して、ベストプラクティスとなる形で業務フローをグローバルで統一していきます。グローバルテンプレートの導入により、原価計算等の会計基準も統一されることになり、同一基準かつタイムリーな経営データを入手することが可能となります。また、業務プロセスも統一されることで、どの拠点でも同じように働けるためグローバルでの人材活用の幅が広がり、BCPの体制強化にもつながると考えています。

Q. 最後に、NGP-1初年度の業績予想について教えてください。

今期の連結業績予想は、売上高151,000百万円（前期比0.4％増）、営業利益5,000百万円（前期比20.5%減）、経常利益5,300百万円（前期比27.2%減）となります。売上高は微増ですが、前期はコロナ禍で抑制されていた販売管理費が増加し、営業利益は対前年-13億円の減益を予想しています。

研究開発費も増加を見込んでおり（対売上高8.1%の比率）、７つの重点課題の1つであるSDGsへの貢献を意識した製品の開発（生分解性の高いアロマイングリディエンツ等の開発強化やCO_2排出量の多い分離工程の代替技術の開発強化）に積極的に取り組んでまいります。

持続的な成長を続けていく上で、サステナビリティ課題への対応は必須です。一つひとつの課題に真摯に取り組み、ビジネスの成長とともににマーケットプレゼンスを拡大し、環境面・社会面においても社会の一員としての責任を果たしていきたいと考えております。

ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご理解とご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

コーポレートビジョン
CORPORATE VISION

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

中期経営計画

New Global Plan-1【NGP-1】

当社グループは、Vision 2040で定めた「ありたい姿」に近づくため、中期経営計画「New Global Plan-1【NGP-1】」を2021年度から2023年度にかけて実施していきます。

NGP-1においては、成長著しい新興市場を中心とする海外市場において、より一層の成長を促進すること、日本国内の利益の改善に努めること、グローバル全体でのサステナビリティの推進を図ることを「3つの基本方針」としております。

そのため、先の中期経営計画「One-T」の基本方針である5項目をNGP-1でも「5つの柱」と位置付け、これら基本方針、柱に沿ってグループ横断的に取り組むべき「7つの重点課題」を定めました。

「7つの重点課題」の達成のため、海外拠点の連携強化、生産能力の増強と効率化、日本を中心とした研究開発機能の充実、を図ると共に、One-Takasagoとしてグループ一丸での目的の共有、推進のため、リーダーシップの一層の発揮およびグローバルでのコミュニケーションの強化による従業員のモチベーションの向上に努めてまいります。

3つの基本方針

- 海外の成長促進
- 国内の利益改善
- サステナビリティの推進

5つの柱

- 人材開発
- 事業成長戦略推進
- 顧客満足度向上
- 利益体質改善
- 技術革新

7つの重点課題

- グローバル経営基盤の整備
- 海外拠点の事業部門強化のための仕組み作り
- 合成事業生産体制の再構築
- FL・FR製品生産効率性の追求
- 海外拠点と日本を繋ぐ安定した人材の開発
- 先端科学による競争力のある技術の創成
- SDGsへの貢献を意識した製品の開発

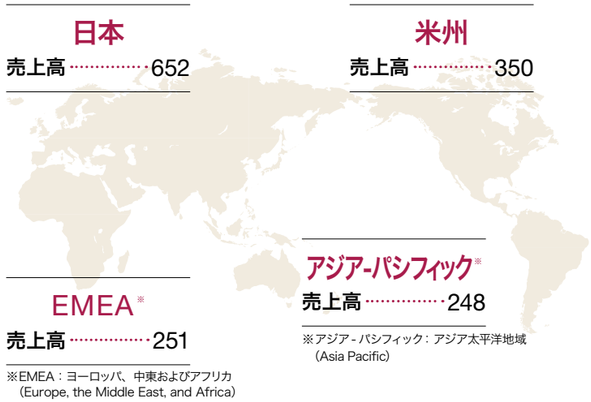
会社概要・財務ハイライト

2020年2月9日、高砂香料グループは創業100周年を迎えました。1920年の創業以来掲げてきた「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を創業精神とし、香料業界のリーディングカンパニーとして最先端の研究と開発を続け、革新的で価値ある製品を創り出しています。これからも私たちは革新的な技術力で、より豊かな社会を実現していくことを目指し、香りを通して世界の人々の心と体の健康に貢献してまいります。

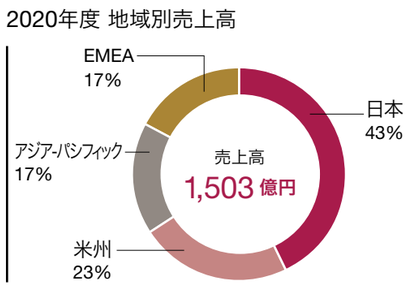
会社概要

会社名	高砂香料工業株式会社
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田５丁目37番１号
設立	1920（大正9）年２月９日
資本金	92億円
従業員数	3,719名

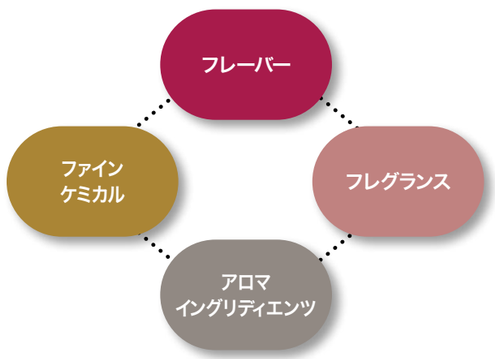
財務ハイライト（億円）

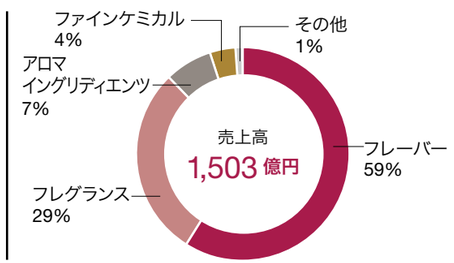


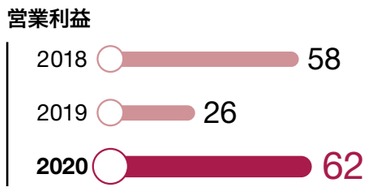
※EMEA：ヨーロッパ、中東およびアフリカ（Europe, the Middle East, and Africa）
※アジア-パシフィック：アジア太平洋地域（Asia Pacific）

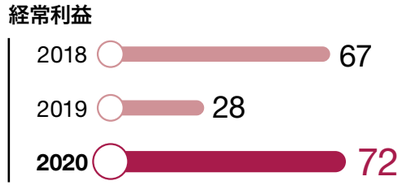


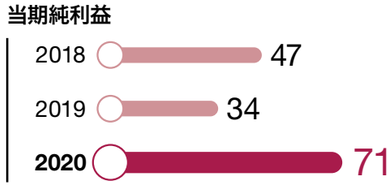
4つの事業

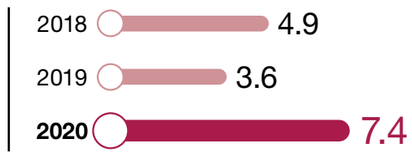


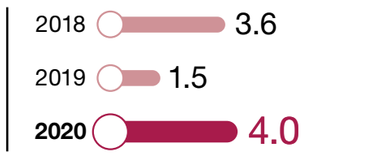


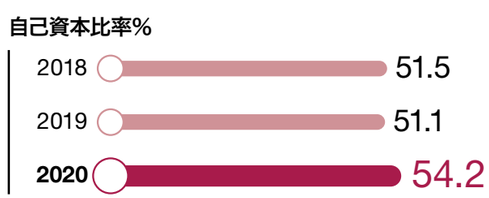


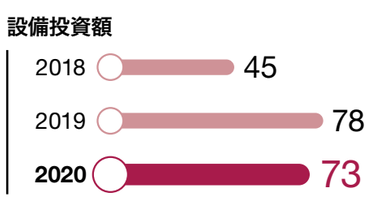


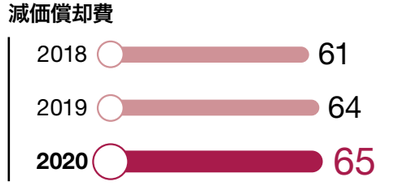


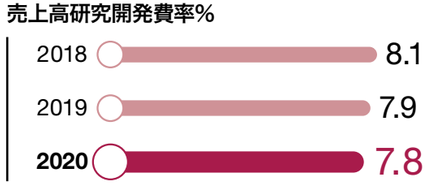












グローバルネットワーク

高砂香料グループは、現在世界28の国と地域に事業拠点を設けています。香料に対する嗜好は文化や風土、習慣によって多岐にわたります。今後とも、グローバル化を進め、研究・生産・販売体制の強化によりお客様のニーズにきめ細かくお応えしてまいります。

Office Headquarters / Sales Office / Representative Office
Laboratory Flavors / Fragrances / R&D
Factory Flavors / Fragrances / Aroma Ingredients / Fine Chemicals / Food / Natural Resources

Zülpich / Germany

Tokyo / Japan

Rockleigh / U.S.A.

Paris / France
St.Ouen / France
Moscow / Russia
Ascot / U.K.
Zülpich / Germany
Milano / Italy
Barcelona / Spain
Istanbul / Turkey
Murcia / Spain
Agadir / Morocco
Seoul / Korea
Shanghai / China
Guangzhou / China
Lahore / Pakistan
New Delhi / India
Dubai / UAE
Mumbai / India
Bangalore / India
Chennai / India
Hongkong / China
Xiamen / China
Taipei / Taiwan
Manila / Philippines
Yangon / Myanmar
Bangkok / Thailand
Ho Chi Minh City / Vietnam
Selangor / Malaysia
Singapore / Singapore
Purwokerto / Indonesia
Tangerang / Indonesia
Cikarang / Indonesia
Antananarivo / Madagascar
Midrand / South Africa
Japan
Tokyo
Osaka
Nagoya
Fukuoka
Hiratsuka
Iwata
Kashima
Mihara
Sydney / Australia
Crystal Lake / U.S.A.
New York / U.S.A.
Rockleigh
Harriman
Teterboro
Rockingham / U.S.A.
Bartow / U.S.A.
Mexico City / Mexico
Vinhedo / Brazil

St.Ouen / France

Murcia / Spain

Cikarang / Indonesia

Singapore / Singapore

Shanghai / China

Mexico City / Mexico

Vinhedo / Brazil

Sustainability マネージメント

高砂香料グループは、コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化を通じて
透明性の高い誠実なサステナビリティ経営を目指しています。

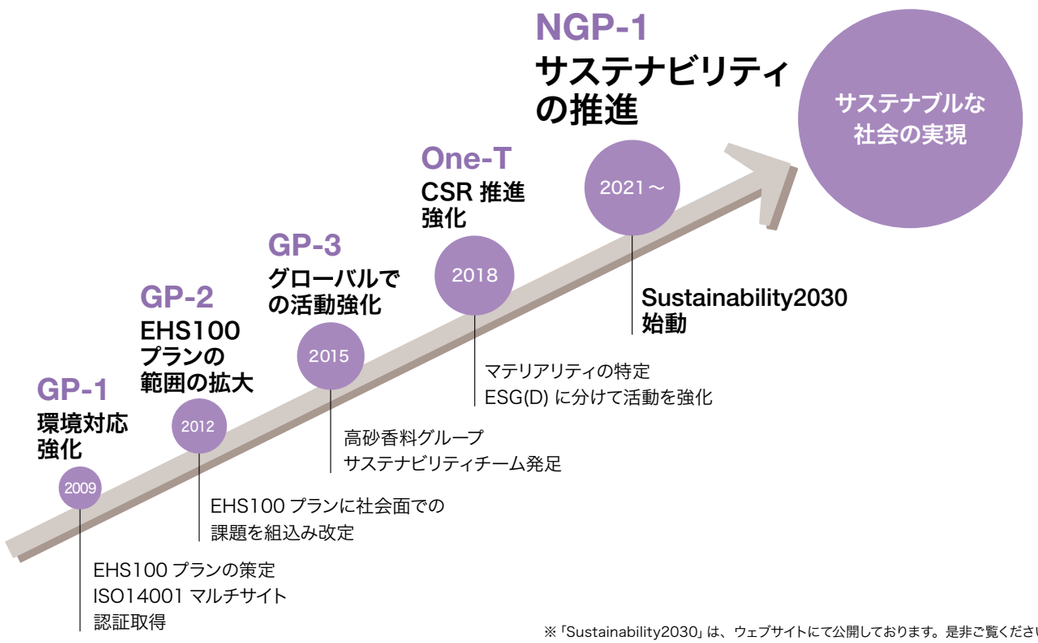
サステナビリティ基本方針

高砂香料グループは、Vision2040「人にやさしく、環境にやさしく」に則り、多様な価値観を尊重し、自然との共生を目指します。公正かつ透明な企業活動を通じて、社会課題の解決に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

これまでの歩み

当社は2002年に環境宣言を公表し、事業活動を通じて環境課題への取り組みを続けております。グループCSR中長期計画「EHS100プラン」を2009年から始動させ、活動の目標や達成度の評価を環境報告書の中で報告してきました。GP-2より人権、ダイバーシティなど社会面での取り組みへもスコープを拡大しております。GP-3では、グローバルでのサステナビリティ体制を構築し、2021年より開始したNGP-1※ではサステナビリティの推進を掲げています。

※ GP-1～3：2009年から開始した中期経営計画「Global Plan」



※「Sustainability2030」は、ウェブサイトにて公開しております。是非ご覧ください。
https://www.takasago.com/ja/sustainability/sustainability2030.html

Message from Senior Vice President

取締役 常務執行役員
コーポレート本部長 兼 EHS Executive
山形 達哉

Takasago Global Planの最終フェーズOne-Tが終了し、
2021年4月から*Vision 2040*最初の3カ年であるNGP-1がスタートしました。
***Vision 2040*「人にやさしく、環境にやさしく」を指針に、**
引き続きサステナビリティ推進に注力したいと思います。
高砂香料グループのマテリアリティを実現する目的で、右記の大項目を設定し、
前半10年の*Sustainability2030*を活動計画として策定しました。

大項目
1. 気候変動
2. 環境負荷低減
3. 労働安全衛生
4. 地域コミュニティ
5. グリーンケミストリー
6. 責任ある調達
7. 人権
8. 透明性

本中期経営計画では、One-Tで進めてきたことをベースに、各々の取り組みを高度化していきます。具体的な取り組みを幾つかご紹介いたします。

気候変動への対応に関しては、2020年TCFDに沿った行動計画を策定し公表しました。グリーンケミストリーを中心に環境適応商品・プロセスの開発を推進していきます。緩和策においては、各事業所での省エネ活動に加え再生エネルギー利用を促進させたいと思っています。サプライチェーンにおけるグループ全体でのCO_2排出削減では、2021年5月に取得したSBTi基準に則り、2030年度までにScope1+Scope2において27．5%、Scope3においては13．5%の削減を目指します。前述した自社工場での再生エネルギーの導入促進も重要ですが、原料調達活動などサプライチェーン（Scope3）におけるCO_2排出削減にも注力していきます。

人権保護については、高砂香料グループ人権ポリシーに基づき2019年より人権デューデリジェンスを実施してきております。当社のサプライチェーンも含めた全事業活動において、人権侵害が行われていないか、行われるリスクがないかを確認するプロセスとなりますが、各事業拠点の中での調査に加え、本社のグローバル機能部門においてもヒアリングを行い、人権侵害がないことを確認しております。このプロセスを通して、グループ内の情報セキュリティ上の脆弱性など改善が必要と判断されたところにおいては適宜改善を図っています。引き続き人権デューデリジェンスの充実に努めていきます。

責任ある調達もまたとても重要なことです。2020年、原料調達だけでなく、物流やIT機器関係などあらゆる調達活動を網羅するべく、サプライヤー行動規範を改定いたしました。CO_2排出削減努力、また人権問題対応においても、自社内のみならずサプライチェーンにおける協調体制が必要不可欠です。NGP-1では、すべての協力会社の皆様と一緒に、そのサプライチェーンにおいても本行動規範が遵守されるよう努めてまいります。

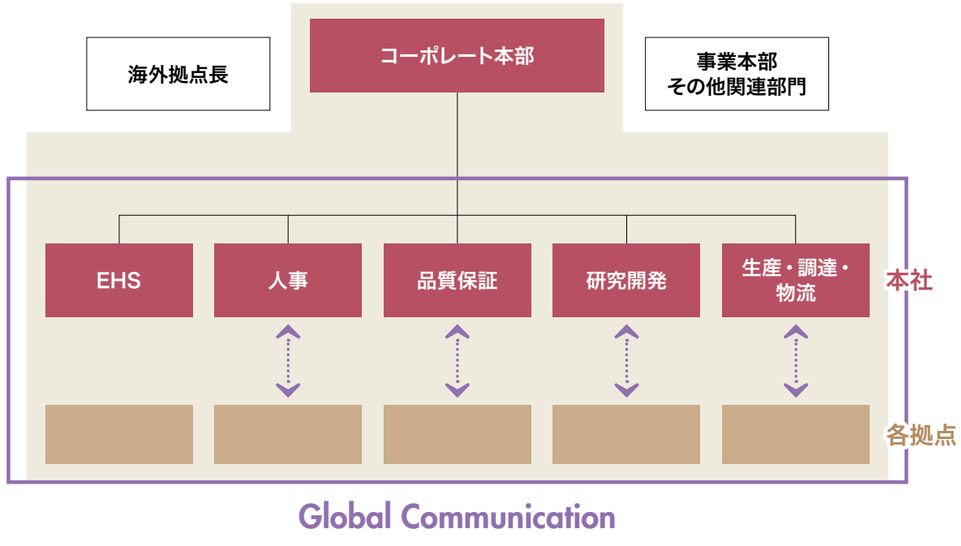
高砂香料グループのサステナビリティの考え方は、経済性、環境性、社会性の三位一体を追求するというものです。引き続き、ステークホルダーとのエンゲージメント強化を図り、コロナ禍で厳しい状況は続きますが、マーケットプレゼンスを拡大しビジネス成長に努めてまいります。

推進体制

グループ全体でビジョン、行動指針を共有し、活動を積極的に推進させるために発足したのが「高砂香料グループ　サステナビリティチーム」です。EHS、人事、品質保証、研究開発、生産・調達・物流の5つの機能を主としたチーム編成となっており、それぞれの機能が拠点横断的なグローバルの協力体制を取っています。同チームの発足以来、定期的に本社では「サステナビリティ推進会議」を開催し、各部門から集まった代表者間でサステナビリティ関連課題の議論やそれぞれの活動計画の進捗共有等を行っています。

グループCSR中長期計画「EHS100プラン」は2020年度に最終年度を迎えました。2021年度からは新サステナビリティ中長期計画「Sustainability 2030」が始動し、今後はこの計画を基盤にグローバルで社会課題に取り組んでいきます。

高砂香料グループ　サステナビリティチーム



マテリアリティ

社会からの要請が多種多様化する中、当社は、毎年マテリアリティ※の特定を行っています。特定された項目を中心に取り組みを行うことで、全社的に長期的な視点に立ち、社会課題の解決に向け日々注力しています。

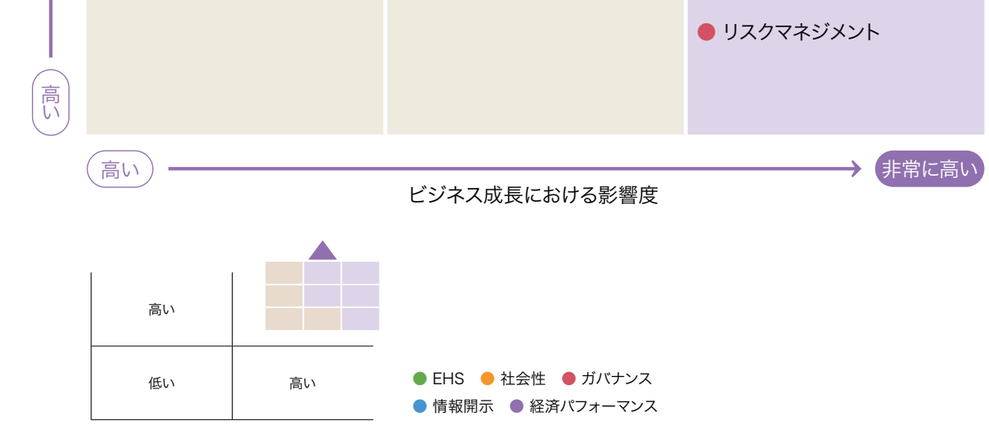
2017年に外部の意見を取り入れながら初めて特定作業を実施し、以下のプロセスに則り、毎年議論・見直しを行っております。

※マテリアリティ：一定の評価・選定プロセスを通じて特定された、「サステナビリティにおける重要項目」のこと。当社が参照する「GRIスタンダード」（報告書に関するグローバルなガイドライン）では、マテリアルである（重要性が高い）と特定した項目について報告を行うこととしている。

マテリアリティ特定のプロセス

国際的なサステナビリティの指標をベースにステークホルダーに対する重要度を評価 ▶ サステナビリティ推進会議にて、グループのビジネス成長における影響を検討 ▶ 執行役員会にて議論、取締役会にて議論・承認

マテリアリティ 2020-2021



SDGsとの結びつき

私たちの事業活動は、17の持続可能な開発目標（SDGs）にさまざまな観点で結びついています。
一つひとつの戦略・計画を着実に進めていくことでサステナビリティの強化に努めるとともに、
社会の一員としての責任を果たし長期的な視野で企業価値向上に取り組んでまいります。

	マテリアルな項目	SDGs	戦略／計画
EHS	環境負荷低減	3 6 7 8 9 11 14	•Sustainability 2030 •TCFD提言に沿った高砂香料グループとしての戦略／計画
EHS	気候変動	6 7 11 13 15	
EHS	労働安全衛生	3 6 8 10 11	•ISO45001認証取得
社会面	原材料	12 17	•持続可能な調達プログラム（*TaSuKI*）
社会面	顧客の安全衛生	3 12 15	•コーポレートQCポリシー
社会面	イノベーション	2 3 9 13 15	•R&D戦略
社会面	グリーンケミストリー	6 7 12 13	
社会面	地域コミュニティ	8 15	•地域社会活動 年次活動計画
社会面	人材育成	5 8	•トレーニングプログラムガイドライン
社会面	責任ある調達	12 17	•コーポレート調達ポリシー
ガバナンス	人権	5 8 10 16 17	•高砂香料グループ人権ポリシー
ガバナンス	経済パフォーマンス	8	•中期経営計画「NGP-1」
ガバナンス	リスクマネジメント	8	•リスク管理委員会
情報開示	透明性	12 17	•GRIガイドラインに沿ったサステナビリティレポート（日・英）の発行

サステナブルな社会

France

特 集

Our SDGs

海外拠点でのSDGsに結びつく取り組み

SDGsは、企業が事業と社会の双方の価値を創造する機会を提供します。18～19ページで紹介するOne-Takasagoとしての取り組みに加え、各拠点においても事業活動がSDGs17目標の達成にどのように貢献しているかについて意見交換を行いました。それぞれの強みを活かし、さまざまな角度から社会課題に取り組んでいます。拠点別に取り組みの一例をご紹介します。

Singapore

Our SDGsと題し、各拠点でのSDGsに結びつく取り組みが各拠点長より発表されました。

Comment for Sustainability

取締役 常務執行役員
コーポレート本部長 兼
EHS Executive
山形 達哉

高砂香料グループでは、2009年よりEHS100PlanをCSR中長期計画として位置づけ、EHS（環境、健康・衛生、安全）課題だけなく、人権の尊重など社会面での課題に対しても積極的に取り組んできました。効率的な資源の活用やグリーンケミストリーに沿ったプロセス開発を通した環境負荷低減、責任ある調達、またダイバーシティ&インクルージョンなどを推進してまいりました。

世界の多様な課題の解決を目指す国連の開発目標であるSDGsと、私達の香料を中心とした事業活動と様々なところで密接に結びついています。SDGsへの貢献は、今日、国際社会やマーケットの要請であると同時に、これらに積極的に対応することが、新たなビジネスの機会に繋がるものと考えています。

地球や社会の未来のために、私達も国際社会の一員としてSDGsへの貢献をしていきたいと思います。

フランス

環境に配慮した持続可能なモビリティプログラム

Takasago Europe Perfumery Laboratory S. A. R. L.（TEPL）は、環境に配慮した持続可能なモビリティプログラムを実施しています。従業員の移動や、輸送に伴うCO_2排出量を削減することを目的としています。あらゆるレベルで、公共交通機関、電動自転車、電気自動車、タクシー、出張、リモートワークなどの代替ソリューションが提案されています。期待される効果としては、CO_2排出量の削減、生物多様性の保全と環境・資源の保護や責任ある生産・消費スキームの推進にもつながると考えています。

※これはイメージです

U. S. A.

シンガポール

太陽光発電で持続可能なエネルギーの利用を促進

太陽光発電システムは、化石燃料に比べCO_2排出量が少なく、環境の持続可能性に貢献しています。Takasago International（Singapore）Pte. Ltd.（TIS）では、2014年度に旧生産拠点から移転したSunview Roadの工場・管理棟の屋上に太陽光発電パネルを設置するため、地元企業であるSunseap社と提携し、取り組みを進めています。太陽光発電システムは2015年度から発電を開始し、TISの年間電力使用量の約3%を供給しています。

この取り組みを継続するため、2017年度に太陽光発電システムを第2フェーズに進めることを決定し、空調用設備の上に太陽光パネルを追加設置しました。TISに設置された太陽光パネルの総発電容量は現在275kWで、TISの年間消費電力量の約3. 3%（フェーズ1比10%増）を供給しており、TISのカーボンフットプリントを122トンCO_2／年削減しています。

太陽光パネル（工場屋根）

太陽光パネル（管理棟屋根）
管理棟屋根

米国

ジェンダーイコーリティを目指して

状況は改善されつつあるものの、女性は、仕事を休まなければならないことが多く安定した職歴にマイナスの影響を与え、その結果、類似職種の賃金格差を招いています。子育てや介護を理由に離職した女性は、現在働いている女性に比べて7～10%少ないオファーを受けることになり、賃金格差が長引くことになります。

このような長年の給与格差を認識しTakasago International Corp.（U. S. A.）は、従業員の給与を定期的に見直しています。具体的には報酬・給与監査を実施し、男女別の報酬率を分析し、報酬格差や懸念事項がないかを確認しています。不均衡が発見された場合には、直ちに適切な調整を行います。

また、給与格差の解消に向けた取り組みとして、採用時の給与履歴情報の不要化を進めています。ポジションの公正かつ公平な給与レンジを設定し、候補者と率直な話し合いを行っています。求人および従業員給与の調整は、個人の技能、経験および功績に基づいて行われ、過去の報酬に基づいては行っておりません。

※これはイメージです

スペイン

心身の健康管理・増進

Takasago International Chemicals (Europe), S. A.(TICSA)では、従業員の健康指標や生活の質を向上させることを目的に、さまざまな研修を用意しています。教育・研修を通じ、従業員の健康習慣・健康状態の向上に努めています。

Training Week 2021が4月7日、8日、9日に開催され、保健生活習慣の第1コースとなった「世界保健デー」と同時に開催されました。この活動では大半の社員が参加し、健康的な生活を送るためには、健康的な生活習慣を作る必要があり、健康障害を防ぐ必要があることを改めて認識いたしました。特定の行動が健康や生活の質に及ぼす負の影響、運動習慣、衛生、バランスの取れた食事、一般的に健康な生活を送ることに寄与するすべてのものの有益性を評価することを学びました。

今後も、専門家のアドバイスも踏まえながら、従業員が自らの健康目標を設定できるよう、活動やワークショップを開催していきます。

※これはイメージです

ドイツ

蒸気熱の有効活用

Takasago Europe G. m. b. H.(TEG)は、敷地内にある工場の熱設備を増設し、可能な限りの熱源の分散化を図っています。これらの熱源を利用することにより、暖房システムへの負荷を軽減し、暖房に対する一次エネルギー需要を低減することができます。

工場内の蒸気系統の回収タンクは、重要な熱源です。回収タンクは大気中で換気されており、膨張中にかなりの量の蒸気が発生します。これらの蒸気は屋根から失われますがこの残留蒸気をエネルギーとして利用します。その結果、より多くの熱水(蒸気が凝縮した物)を回収することができ、暖房システムの負荷が少なくなります。今後はTEGの新天然ガス地区にも同様の設備を設置する予定です。

この取り組みを通し、暖房によるエネルギー消費を低減させるだけでなく、工場の拡張により取り替えを検討していた暖房システムも使用期間を延長することができ、コスト削減にもつながりました。事業と社会の双方の価値を創造するSDGsのテーマにあった取り組みを今後とも計画していきます。

※これはイメージです

インド

さまざまなアプローチで水使用量の削減を図る

Takasago International (India) Pvt. Ltd.(TII)では、以下4つの取り組みを中心に、水利用の効率を大幅に向上させ持続可能な水供給の確保に取り組んでいます。

1. 処理水量(140.0㎥)の月平均値の40%をガーデニングに再利用。
2. 空調機における水使用量の20%を削減するため、凝縮水を回収 (48㎥/年)。
3. CIPと呼ばれる自動洗浄機能を使用し水使用量を10%削減(24㎥/年)。
4. 雨水集水ピット(26ピット、最大降雨量100㎜に対応)は、安定した地下水位と集水を可能にするため、最大340㎥の雨水を再充填することが可能。

廃水処理プラント

中国(上海)

フレーバーの開発を通したSDGsへの貢献

Shanghai Takasago - Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.(STU)では、環境にやさしいフレーバー開発を積極的に推進しています。バイオマス原料の活用など資源の有効利用はもちろん、香気分析技術活用により基原物質に頼らずに食品が持つ自然の風味を再現したコレクション「Vivid Flavors®」の拡充を新規フレーバー開発の軸に置き、技術立脚を志す香料メーカーならではの手段で持続可能な社会の実現を目指しています。

また、プラントベース・フード(植物性タンパクを利用した飲食品)による動物性食材代替の流れを後押しするフレーバーを開発することは、当社が環境負荷低減に貢献し得る手段の一つであると位置付け、プラントベースミートやプラントベースミルクの嗜好性向上を目指したグローバルプロジェクトに参画しています。

※これはイメージです

中国(広州)

働き甲斐のある職場づくりの促進

高砂香料グループでは、従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、一人ひとりが能力を発揮し成長できるよう働きやすい職場づくりに努めています。具体例の一つとして、労使の話し合いによる制度や処遇の改善などを行い、従業員が働きやすい職場づくりを目指しています。Takasago International (Guangzhou) Co., Ltd.(TIG)では、2012年より広州のAA/AAA格調和労働関係企業表彰を受け、労使の良好な関係が評価されました。また、スキルアップ・成長促進の観点では、TIGでは興味のある従業員向けに日本語をはじめとした語学研修を提供しています。今後はそれぞれのレベルに合わせたスキル向上の年次研修も予定しており、多様な人材が個性や特性を活かし、かつ伸ばしていける職場づくりを進めてまいります。

左/広州におけるグレードAA調和労働関係
右/企業グレードAAA調和労働関係企業

ブラジル

エネルギー消費を100%再生可能エネルギーに

2020年7月、Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.(TBR)は一般的な電力市場から自由エネルギー市場(電力エネルギーの価値をめぐる競争環境)に移行しました。エネルギーは、クリーンエネルギーを生み出す特徴を持つ小水力発電所、バイオマス発電所、風力発電所、太陽光発電所で使用されています。

自由エネルギー市場への移行により、TBRはCO_2排出量の削減とクリーンエネルギー生産の促進に貢献するとともに、100%再生可能エネルギーの利用という世界的な目標を達成することができました。

さらに、柔軟性(エネルギー供給者の自由な選択と消費の上流)、少ないコスト(エネルギー価格の直接交渉)、多くの節約(配電料金の割引)、多くの収益性(残留エネルギーの「販売」)を可能にする)、確実性(規制された料金の変動による環境への影響を回避する)などの他の便益ももたらしています。

※これはイメージです

メキシコ

資源の最適利用を推進し、循環型社会を目指す

Takasago De Mexico S.A De C.V.(TDM)は「Wasteゼロ」活動を企画・実施しました。この取り組みは、産業廃棄物を再利用、リサイクル、堆肥化、発電に利用するなどしてWasteゼロを目指すものです。例えば、金属ドラム缶などの包装資材を他の工程で再利用したり、スクラップ金属、低密度プラスチック、紙、ダンボールをリサイクルしたり、作業工程で発生する粉末や、食品、園芸廃棄物などの有機性廃棄物を土壌改良材として処理し、最終的に再生・再利用できない廃棄物を発電に利用しています。

これらの活動により、水・エネルギー使用量やCO_2排出量を削減することができました。その他の効果としては、材料処分費用の削減、産業副産物の販売による追加収入、地方自治体との関係改善などが挙げられます。このように「Wasteゼロ」活動では、資源の最適利用を推進し、循環型社会に貢献しています。

気候変動への取り組み

高砂香料グループは、気候変動をグローバル視点で、長期的に取り組むべき地球規模の課題と認識しています。
2018年10月に気候変動イニシアチブに参加を表明、またTCFD推奨開示項目について取締役会にて
議論を重ね、2020年4月にその推奨4項目の開示をいたしました。

TCFD　推奨開示項目（抜粋）

ガバナンス

戦　略

2030年以降の気候変動によるリスク・機会の特定

リスク（物理的）	機　会
豪雨や洪水などの自社拠点の操業を含むサプライチェーンへの影響など —— 重要拠点でのBCP策定および事業継続力の強化	**気候変動への適応によるエネルギー効率等操業面での改善やイノベーションによる新製品の開発等** —— 低炭素商品・低炭素技術の研究開発・販売 —— グリーンケミストリーの実現に向けた取り組みを推進

リスク管理

指標と目標

「指標と目標」については、国際的な指標の一つとされる「Science Based Targets initiative（SBTi）」の基準に沿った目標の設定と平行して検討を進め、2021年5月にSBTiの認定を取得しました。今回認定されたGHG削減目標は以下となります。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

	2019（ton）	2030（ton）	削減率
Scope1 ／ Scope2の合計	67,089	48,639	27.5%
Scope3	781,321	675,842	13.5%

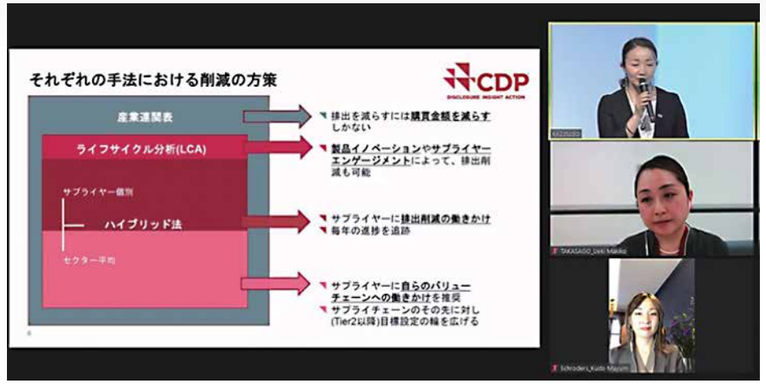
2021年4月よりスタートした当社グループのサステナビリティ中長期計画であるSustainability2030においても同目標が設定されております。この削減目標の達成に向けて、より一層のエネルギーの効率的利用や再生可能エネルギーの導入、原材料などの調達先との協働により排出削減に努めるなど、カーボンニュートラル社会へ貢献してまいります。

TCFD推奨開示内容全体はウェブサイトにてご覧いただけます。　https://www.takasago.com/ja/sustainability/tcfd.html

地球温暖化対策に向けて

環境省、CDPの共催により、「サプライチェーン全体でのCO_2排出量実質ゼロを投資家が投資先企業へ、企業がそのサプライヤーへと求める動きが広がってきている中、こうした取り組みに世界に先駆けて取り組んできた企業や投資家など、それぞれの立場における取り組みの現状や課題を紹介する」ことを目的に、「サプライチェーン・アジア・サミット2021」が開催されました。当社よりパネラーとして参加した担当者の声をご紹介します。

出典：環境省ウェブサイト
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/dms_trends.html#no03



Voice

担当者の声　安全管理部　**植木 牧子**

サプライヤーとしてエンゲージメントを受ける企業の代表としてパネルセッションに参加させていただきました。手探りをしながら地道に活動を進め、今回SBTi認定取得に至った経緯を説明いたしました。コロナ禍の影響によりリモート開催となったため、視聴された方の反応を直接肌で感じることができず残念でしたが、多くのお取引先様や投資家の皆様に当社の活動を知っていただく良い機会となりました。

今回の参加が、グローバル市場で地球温暖化対策に取り組むことを求められ、その対応に苦慮している日本の多くの企業にとって、この取り組みを進める上での一つの参考になりましたら幸いです。

社会性報告

従業員とのかかわり

【高砂香料グループ企業憲章及び行動規範】

高砂香料グループは、技術立脚の精神に則り、社会に貢献するグローバル企業として、持続可能な社会の実現をめざし、人権を尊重し関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって行動するために以下の原則を定めます。

私たちは、従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現します。また、ひとりひとりの従業員を大切にし、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

- 多様な人材が個々の能力を十分に発揮できる人事処遇制度を構築します。
- 雇用における国籍、性別、信条または社会的身分等による差別を行わず、機会の均等を図ります。
- 働き方の見直しを図り、ワーク・ライフ・バランスを推進します。
- 従業員の個性を尊重し、従業員のキャリア形成や能力開発を支援します。
- 従業員の安全と健康保持の増進を実現するため、職場環境の整備、維持を行います。

※高砂香料グループ企業憲章及び行動規範より抜粋。

人材育成

個人の多様な要望や価値観の充足を実現するため、高砂香料グループでは積極的に人材育成に取り組み、働きがいのある職場づくりを推進しています。

階層別研修

新入社員から経営層までの職位に応じた研修を実施、それぞれの階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

〈新入社員研修〉

新入社員には、社会人としての基本や心構え、高砂香料グループの歴史や創香などを学ぶ集合研修の後、半年間の工場実習を行っています。実際に香料が製造される現場を体験することで、自社製品への理解を深めることはもちろん、社会人としての責任やコミュニケーションを学び、配属後の部署においてもスムーズな業務遂行を期待しています。

〈新入社員マナー研修〉

工場実習を終え、それぞれの部門に正式配属となるタイミングで、マナー研修を実施しています。

社会人の基本であるビジネスマナーが実践できているかを確認し、業務上のコミュニケーションに必要な電話応対や挨拶、ビジネス文書の理解など、配属に向けて目指す姿の目標設定を行っています。

〈新任管理職研修〉

新たに管理職に任用された従業員を対象に、管理職としての役割を認識し、実践的なマネジメントの在り方を学び理解を深めることを目的にしています。

〈上級管理職研修〉

人と組織の「らしさ」を大切にした「共創型マネジャー」育成を目標としています。マネジメントの原点を確認し、会社の掲げる方針・目標に対し、部門責任者として期待される役割を再認識し、自分の持ち味を生かした、自分らしいマネジメントの基軸をつくる機会としています。

高砂カレッジ

高砂香料グループを支えていく人材の育成を目的に2009年に開講。若手従業員を対象にした基礎コースに加え、2012年からは専門コースを実施しています。

〈基礎コース〉

「高砂再発見。」をテーマに、若手従業員を対象に実施。お互いの業務を理解し深め合うことを目的に、参加者自らが講師を務めプレゼンテーションを経験することで、業務遂行能力や発信力を強化しています。

〈専門コース〉

従業員の知識や技術をさらに高めるプログラムを実施しています。新しい挑戦や提案に対して柔軟に対応できるよう、コミュニケーション力の向上や発想力、論理的思考力などを学びます。単なるスキルの取得ではなく、社内でどう生かすかの視点を重視、「高砂らしさ」を発揮することを目標としています。

オンライン研修（e-ラーニング）

従業員をはじめ、当社業務に携わるすべての方を対象に、以下のオンライン研修を実施しています。

情報を守るための知識を得ることで、一人ひとりのセキュリティ意識が向上し、人為的ミスによる情報漏洩を防いでいます。

- 情報セキュリティ研修
- 個人情報保護講座
- インサイダー取引規制講座

通信教育講座

従業員自らの積極的な自己啓発、能力開発への支援を目的として、英語を中心とした語学をはじめ、マネジメントやビジネススキル、資格取得や個人のライフスタイルにかかわる内容など、それぞれの興味や必要に応じた通信教育講座を設けています。また、講座修了時には受講料の60%～90%を補助することでも受講を推奨しており、これら通信教育を含めキャリアまたはスキルに関する2020年度の研修割合は24.9%でした。(国内)

自己申告制度

従業員が自分自身の仕事や家庭の状況を会社につたえる自己申告制度を設けています。この制度は、日頃の仕事に対する考え方や新たに挑戦してみたい業務、現況の問題点など、上司を介さずに直接人事総務部長宛に申告をする仕組みです。申告は任意ですが、約90%の従業員が提出をしています。今後の人事施策の参考にするとともに、本人の適正や希望を考慮し、適材適所の人員配置を推進しています。

ダイバーシティ

新しい価値を創出し続けるために、あらゆる差別のない雇用を推進、多様な人材が特性や個性を生かし、いきいきと働くことのできる職場環境づくりに取り組んでいます。

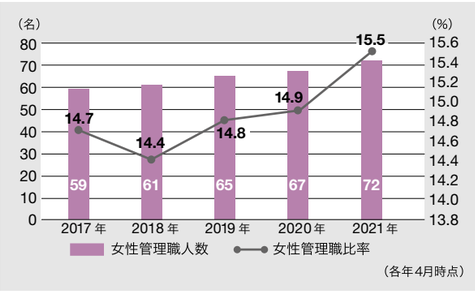
女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

計画期間：2020年4月1日～2025年3月31日(5年間)
数値目標：管理職に占める女性割合を2025年3月末までに16%以上とする。

〈取り組み内容〉
(職業生活に関する機会の提供に関する目標)

- 管理職を対象にしているダイバーシティマネジメント研修の内容を見直し、研修を実施する。
- 主任級を対象にした研修において、管理職に向けての意識改革を目的としたキャリア支援研修の内容を見直し実施する。

●女性管理職人数と比率（対管理職全員）



(各年4月時点)

グローバル人材採用への取り組み

グローバルに活躍できる人材育成の一環として、外国人の採用にも積極的に取り組んでいます。

日本での就職を希望している外国人留学生を対象に、オンラインで会社説明会を開催、高砂香料グループのグローバルな事業について紹介しました。また、海外の大学に在籍、卒業後は日本での就職を希望する学生に対しても、積極的に採用活動を行っています。外国人の採用に際しては、多様な発想や知識などそれぞれの強みを生かし、新しい価値を生み出すことに期待しています。

定年再雇用制度

定年を迎えた60歳以上の従業員には、今まで培ってきた経験や能力を発揮できる再雇用制度を設けています。過去3年(2018年9月～2021年3月)の再雇用希望率は84.6%、希望者につきましては100%再雇用を行っています。また、定年前の従業員を対象に「ライフプランセミナー」を開催、定年後の生活設計について支援を行っています。

さらに退職後には、OB会である「高友会」に加入が可能となり、懇親会の際には社長からのメッセージや役員の参加もあり、高砂香料ファミリーとして定期的な懇親の場が設けられています。

障がい者雇用の促進

障がいのある方の採用活動を積極的に行うとともに、能力や適正を最大限に発揮し活躍できる環境と、定着を図る雇用制度を進めています。引き続き、障がいのある従業員にとって働きやすい職場の充実を通じて社会的責任を遂行していきます。

● 障がい者雇用率

※退職により雇用率減少、現在採用活動中。

ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和を保ちながら充実して働けるように、高砂香料グループではワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいます。

育児支援

育児休業や育児時間、看護休暇の制度を整え、安心して従業員が仕事と育児を両立しながら働ける環境づくりを推進しています。

育児休業制度	子どもが満1歳6カ月になるまでの期間、育児休業が取得できます。
育児短時間勤務	3歳に満たない子どもを養育する場合、1日6時間の就業にすることが可能です。
育児時間	子どもが小学校3年生修了時まで、1日1時間を上限とし、30分単位で取得が可能です。
看護休暇制度	小学校入学前の子どもの看護を必要とする場合、1名につき年6日、かつ時間単位での休暇が取得できます。

● 育児休業の取得状況

	2020 年度育児休業取得者 (名)	育児休業取得権利保持者※ (名)	割合 (%)
男性	7	28	25
女性	25	25	100
合計	32	53	60

※男性 : 年度内に子どもが生まれた者
女性 : 年度内に産前産後休業が終了し、育児休業を取得できる者

● 育児休業後の復職率

	2020 年度中に育児休業から復職した従業員 (名)	復職予定者数 (名)	割合 (%)
男性	6	6	100
女性	11	12	92
合計	17	18	94

介護支援

家族に対する介護が必要になっても退職することなく、長期にわたって働き続けられるように介護休暇および介護休業制度を設けています。

介護休暇	要介護状態にある家族の介護やその他の世話をする従業員は、対象の家族１名につき年間５日、２名以上を介護する場合は、年間10日を限度として休暇が取得できます。かつ時間単位の取得が可能です。
介護休業	半日単位で年40回までの取得が可能、さらに1カ月単位の取得と合わせて最長12カ月の休業が可能です。

福利厚生

従業員のより一層の生活向上のため、福利厚生の充実を図っています。従業員持株会や財形貯蓄制度、社有保養所等各種施設の利用も可能です。また、カフェテリアプラン(選択型福利厚生制度)では、従業員やその家族の生活を豊かに支援するためのメニューを選択・利用することができます。

● メニューの一例

生活	毎日の暮らしのさまざまなシーンで使えるサービスの提供 ライフプラン相談 家事代行、引っ越しサービス
リフレッシュ	フィットネス施設や各種スクールの優待 宿泊施設、旅行の優待 各種レジャー施設の優待
育児サービス	育児補助金制度 ファミリーサポート制度 子育てセミナー
介護サービス	介護補助金制度 介護 e- ラーニング制度 要介護・要支援診断システム

有給休暇制度

年次有給休暇については、従来からの1日単位、半日単位の取得に加え、1時間単位での時間単位有給休暇(年間最大5日分相当)の取得が可能です。時間単位有給休暇では、育児や介護、短時間での私用対応など、休暇を取得しやすい環境の実現に取り組んでいます。

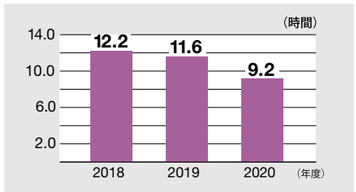
リフレッシュ休暇制度

従業員が心身ともにリフレッシュをし、幅広い視野と柔軟な思考を育む機会が得られるよう、勤続10年以降、5年ごとに5日間のリフレッシュ休暇を取得できる制度を設けています。また、勤続15周年、25周年を迎えた従業員には感謝の意を込めて、勤続表彰金が支給されます。

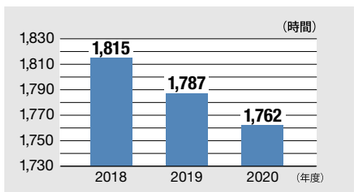
ノー残業デーの実施

時間外労働の削減などにより、労働時間の適正化を図るとともに、業務改善による作業効率の向上や終業後の有効な時間活用を推進しています。毎月第2・第3水曜日は「ノー残業デー」とし、継続的に運用しています。

● 時間外労働平均時間数 (月)



● 年間総実労働平均時間数



健康維持・増進

従業員の心身の健康管理・増進のため、さまざまな活動を行っています。

体の健康づくり

定期健康診断のほか、特殊健康診断や雇い入れ時の健康診断など、法令に則り適正に実施しています。また、35歳以上の従業員は2年に1度、人間ドックの受診対象となっています。健康診断後、必要な従業員に対しては保健指導を実施しています。

〈長時間労働への対応〉

時間外労働が月50時間を越えた従業員に対しては、産業医による面談の機会を設けています。従業員の健康状況を把握するとともに、産業医の見解に基づいた必要な措置を行っています。

心の健康管理

研修や各施策を通じて、仕事や職場環境などさまざまな不安や悩みを持つ従業員の心の負担を軽減し、労働意欲を維持するとともに、明るい職場づくりを推奨しています。

〈ストレスチェック〉

心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）を実施しています。

従業員のストレス値を部署・部門ごとに集計・分析することで、ストレスの高い部署・部門については、仕事の質と量に見合った人員配置や職場環境の改善、長時間労働等を是正し、働きやすい職場環境を目指します。また、個々人のストレスの気づきを促し、メンタル不調者の発生を未然に防ぐことも目的の一つとしています。回答された内容は個人の健康管理のため、産業医・保健師・看護師のみが確認し、必要に応じて面談を行っています。

〈保健師への相談窓口〉

メンタルヘルス疾患防止のための施策づくり、およびメンタルヘルスチェックの窓口として、保健師が常駐しています。家庭や職場等の相談をメールや電話で受けつけ、オンラインでの相談や必要に応じては各事業所での面談を実施しています。また、毎月の医務室だよりを通じて、全従業員に心と体の健康管理の注意・アドバイスを行っています。

労使関係

高砂香料グループは結社の自由および団体交渉の権利を尊重しており、ユニオンショップ制で組織されている高砂香料工業労働組合と企業活動全般に関する課題解決に向けた話し合いを積極的に行っています。

経営に関する情報を共有、議論する労使協議会（年2回）や、中央安全衛生委員会（年1回）、中央福利厚生委員会（年1回）など、労使が協力してさまざまな課題を検討する場を設け、適切な事業運営につなげています。また労使の話し合いによる制度や処遇の改善などを行い、従業員が働きやすい職場づくりに努めています。

新型コロナウイルス（COVID-19）感染予防対策に関して

高砂香料グループでは新型コロナウイルス（COVID-19）感染症予防対策の一環として、従業員（製品の供給・開発に直接関係する部署を除く）を対象に、業務内容に応じた多様な働き方を実施しています。

公共の交通機関を利用し通勤している従業員を対象に時差通勤を導入、7時から11時始業が可能となりました（本社、研究所）。それに伴い終業時間も15時30分から19時30分となり、満員電車での混雑回避・感染防止とともに柔軟な働き方にもつながっています。

また、2020年3月からは在宅勤務を導入しています。在宅勤務に際しては、会社からのパソコン貸与、情報セキュリティを強化することでリモートでの業務遂行、オンラインによる会議や打合せもスムーズに行われています。人材育成に必要な研修に関しても、従来通りの集合形式ではなく、オンラインでのリモート研修とし、密と移動を避けて実施いたしました。

2021年6月現在、政府および都道府県の要請に従い、テレワークを推進、交代で在宅勤務を行うこと、社内ではマスク着用と手指の消毒を徹底、一部座席間や応接室には飛沫防止のアクリル板を設け、また、一人用ワークブースの設置等、一定間隔を空けて業務を行っています。会議はできる限りオンラインで行うこと、また不要不急の国内出張を控える対策を取っています。

高砂香料グループでは従業員の安全と健康維持を最優先とし、また、お客様に対しては、生活に欠かせない商品に使用される香料を安定して供給し続けられるよう、1日も早い新型コロナウイルス（COVID-19）感染の収束を願うとともに、引き続き感染予防に努めてまいります。

» お取引先様とのかかわり

サプライチェーンと調達モデルの概要

高砂香料グループは、事業活動において持続可能性を重要と考えています。そこで、調達活動においては各事業で用いる原材料に関し、お客様および社会の期待とニーズにも応えるべく「責任ある調達」を実施しています。高砂香料グループは、世界中の1,000社以上のサプライヤーから調達した約14,000種類の原材料を製品製造に使用しています。これらの原材料のうち約5,000種類は、果実、野菜、樹木、根、葉、花などの天然素材に由来する天然原料です。その他の約9,000種類は高度な化学技術により得られる合成香料であり、天然ガスやナフサから得られるものや、松のような天然素材から得られるものもあります。合成香料は自然には存在しないユニークな香気プロファイルを提供するだけでなく、ムスクやアンバーグリスなどのような動物由来の貴重な成分の代替品にもなり得ます。

これらの高品質な原材料を適切な価格で世界各地の拠点にタイムリーに供給するために、我々のグローバル調達チームは世界的なネットワークを通じてコミュニケーションを図り、調達活動を強化しています。

そして、責任ある調達の実現に向けて、公平で信頼ある関係をビジネスパートナーと作り上げるために、私たちは調達活動における方針として「コーポレート調達ポリシー」、調達部員が守るべき事項をまとめた「コーポレート調達ガイドライン」、お取引先様に遵守をお願いする項目をまとめた「高砂香料グループサプライヤー行動規範」、原材料の調達網の透明性を確認するなどの目的で「高砂香料責任ある調達ポリシー」を制定しています。

» コーポレート調達ポリシー

高砂香料グループは、持続可能な経済成長と社会問題の解決のために、原材料の調達だけでなく、事業に必要なあらゆる物やサービスの調達において、「責任ある調達」を実現してまいります。

その責任をより明確にするために2020年にコーポレート調達ポリシーを改定しました。https://www.takasago.com/ja/sustainability/society/visitor.htmlに全文が記載されております。

» コーポレート調達ガイドライン

コーポレート調達ガイドラインは、コーポレート調達ポリシーを実際の行動に当てはめたものです。当ガイドラインには、責任ある調達の概念に合わせて、コンプライアンス、公正取引、腐敗防止、人権、環境保護などの基本的な主題が含まれています。

国内の調達部員をはじめ、高砂香料グループの各拠点で調達業務に携わる担当者が皆、責任ある調達活動を行うべく「コーポレート調達ガイドライン」を定めて教育を行い、会社方針を徹底しています。

コーポレート調達ガイドラインの実施を確実にするために、グローバル調達トレーニングには、当ガイドラインおよび高砂香料グループの基本的なポリシーに関するセッションが含まれています。

» 高砂香料グループサプライヤー行動規範

高砂香料グループは社会から高いレベルの信頼を維持できるよう、環境的社会的責任を重視するお取引先様を尊重し、優先しています。お取引先様にもこのような価値観と方針を共有いただくため、「高砂香料グループサプライヤー行動規範」を定めて、ご理解いただいております。

お取引先様との共有事項を明確にするために、2021年3月「高砂香料グループサプライヤー行動規範」を改定いたしました。このコンセプトは、責任ある調達に対する私たちのビジョン、目的、コミットメントを記した高砂香料責任ある調達ポリシーにも反映されています。高砂香料責任ある調達ポリシーは、ECOCERT expert consultingにより、ISO26000およびSMETA（Sedexメンバーの倫理的監査）[※1]の原則といった、グローバルスタンダードに準拠していることが確認および承認されています。

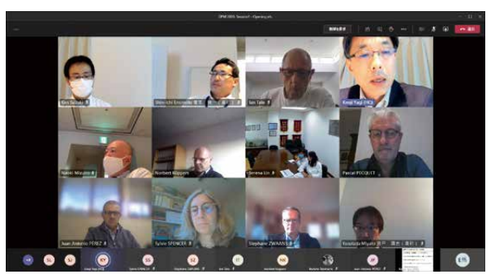
※1 SMETA：社会・環境に関するベストプラクティスを集約し作られたSedex※2による社会監査基準。
※2 Sedex：倫理的かつ責任ある慣行に関する情報を共有するためのオンラインプラットフォーム。

» これからの調達の役割

2020年、創業100周年を機に会社の将来像が検討される際、調達本部では、中長期的に調達が果たすべき役割を考えビジョンにまとめました。その中で、私たちは調達活動を通じて、より良い社会づくりに貢献するために「つながる」を大切にすることを主題に掲げています。特に、VUCAの時代と言われる今日、Volatility＝変動性、Uncertainty＝不確実性、Complexity＝複雑性、Ambiguity＝曖昧性に対応し、BCP（事業継続計画）やレジリエンスを強化するためには、これまでにも増して、グローバル連携とOne Takasagoとしてのチームワークが必要と考えています。当社の原材料は、世界中の多様なサプライヤーから納入されます。それらの調達を長期的で安定的に、即ち、持続可能に行うためにも、各地域に根差して活動する海外拠点が、高砂香料グループの国際調達オフィスとして、さまざまなステークホルダーとの関係性を調整することが欠かせません。

» 国際調達チーム

チームワークは、テクノロジー、信頼とともに、高砂香料グループにとって最も重要な価値観の一つです。これは、まさに調達活動についても該当する大切な要素です。現在では、世界11の拠点からの調達担当者による国際調達チームを形成し、コーポレート調達ポリシーの実践や業務プロセスの最適化等を進めるべく、活動しています。本社での年次会議に加えて、カテゴリー別作業部会、地域別会議、現地訪問、およびトレーニング等を、地域、カテゴリー、或いは戦略等に応じて、縦横に連携しながら推進しています。新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックにより往来が困難になる一方で、オンライン会議を活用して、定期的に、或いは、随時コミュニケーションをとる事が可能になっています。



» 国際調達トレーニング

2019年までは、グローバル調達チームのメンバーは、年に2回本社でのトレーニングセッションに参加する機会がありました。コロナ禍においても、オンラインでのQ&Aセッションを利用しトレーニングを継続しています。グローバルトレーニングは、チームが中期経営計画、コーポレート調達ポリシー、コーポレート調達ガイドラインについて理解を深めることを目的として、年に2回開催され、グループ間のネットワークや対面式のミーティングを通じてチームワークを構築することを目的としています。

Voice

Takasago International Corp. (U.S.A.)

Amy Li

パンデミックの真っ只中に高砂香料に入社し、私は新たなスタートに心を躍らせると同時に不安もありました。困難な状況にもかかわらず、グローバル調達オンライントレーニングのおかげで、会社とさまざまな調達分野について学ぶことができました。新型コロナウイルス（COVID-19）によって、柔軟性、復帰力、適応力、および自己反省力を強化することが必要になっています。このような前例のない時代に、グローバルチームやお取引先様から授かった機会、トレーニング、サポートに感謝しています。また、事業の成長を促進するために学んだことを活かせることを嬉しく思います。

Voice

Takasago International (India) Pvt. Ltd.

Karthik Kumar

日本人はその文化や組織でよく知られておりますが、2020年、私はその姿を体験することができました。グローバル調達チームからプロセスとポリシーを共有し学ぶ、素晴らしい機会を得ました。オンライントレーニングは、私に膨大な知識、専門的なトレーニング、そして会社の評価を向上すること、従業員の忠誠心と自信を向上すること、規制機関とのより良い関係を結ぶことなどの幅広い利益を提供してくれました。皆でともに仕事をすることは非常に前向きな経験になりました！　今後もともにグローバルで働くことを愉しみにしております。

責任ある調達

2017年6月、高砂香料グループは国連グローバル・コンパクト（UNGC）に署名し、人権、労働、環境、腐敗防止の分野でUNGCの10原則に沿った取り組みを続けています。また、各国の法令遵守、人権の尊重、環境保全、公正な商慣行、地域社会への参画・発展に注力しながら、持続可能な調達に努めています。

サプライヤー行動規範のセクションで述べましたように、2019年末、高砂香料責任ある調達ポリシーが検証され、世界基準、慣行、および国連SDGsの17の目標に準拠していることが確認されました。当社の責任ある調達ポリシーは、原材料のサプライヤーを対象とし、サプライヤー行動規範に概説されている原則を強化・具体化しています。この方針に基づいて、人権、労働、環境、腐敗防止の分野における調達活動のリスクと潜在的な影響を調査しています。サプライチェーンに悪影響を及ぼす可能性が確認された場合は、早急に改善計画を立て、サプライヤーなどのステークホルダーと連携して是正措置を講じます。

2020年、高砂香料責任ある調達ポリシーをサプライヤーと共有する計画を最終決定しました。主な目的は、サプライヤーが私たちのポリシーを理解し、内容を実践していることを確認することです。確認には、セルフアセスメント質問書に答えていただくか、またはSedexのメンバーになることを奨励します。この戦略によって、調達におけるESGリスクをさらに評価し、必要な緩和措置を講じることが可能となります。

1）サプライヤー管理

高砂香料グループは、本社を中心にグローバル調達組織を活用した国際調達活動を行っています。今後もグローバルな調達活動を通じて、高品質・安心・安全な商品の安定供給を実現し、お客様だけでなく、すべてのステークホルダーに貢献していきます。そのために、サプライヤーとの直接およびオンラインでの対話、サプライヤーアンケート、Sedex SAQ（Self - Assessment Questionnaire）、責任ある調達アンケート、RFQ（見積り依頼）を利用して、以下に示すようにサプライヤーとの関係を管理します。

- サプライヤーとの強固かつ相互に有益な透明性のあるパートナーシップ構築
- 高品質な原材料を安定的かつ確実に調達できる体制の維持・強化
- サプライヤーとの対話とRFQを通じた目標の相互理解
- 定期的なサプライヤー調査を通じた高砂香料グループサプライヤー行動規範の徹底、および持続可能性や基本的人権の尊重などの企業の社会的責任を重視した高砂香料責任ある調達ポリシーの共有
- 定期的なサプライヤー調査書、Sedex SAQ、および責任ある調達アンケートを通じた強制労働または児童労働の確認

（2020年のサプライヤー調査結果によると、高砂香料グローバルサプライヤーとして認められたすべてのお取引先様が社会・環境基準を満たしていることを確認しました。）

2）第3者機関との協働

高砂香料グループは、責任ある調達活動をさらに進めるために、持続可能で倫理的な調達を推進する外部イニシアチブに参加しています。2020年12月、人権への取り組みを強化するために、一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン（ASSC）のメンバーになりました。私たちは、サプライチェーンで人権デューディリジェンスを実施し、潜在的および実際の人権への悪影響を管理します。

また、RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil＝持続可能なパーム油のための円卓会議）[※3]およびJaSPON（持続可能なパーム油ネットワーク（ジャスポン）＝Japan Sustainable Palm Oil Network）[※4]のメンバーとなり、持続可能なパーム油のためのサプライチェーンを推進しています。フランスの関連会社はRSPO - SCCS認証（マスバランス）を取得し、2020年からRSPO認証製品の供給を開始しています。続いて、Takasago International Corp. U.S.A.（Harriman工場）は、2021年1月にRSPO - SCCS認証（マスバランス）認証を取得しました。また、顧客、サプライヤー、社内のステークホルダーと、フレーバー製品用のMCT（中鎖脂肪酸トリグリセリド）、グリセリンなどの持続可能なパーム油誘導体を確保するよう、コミュニケーションを図っています。

2016年初頭、高砂香料はSedex（ABメンバーシップ）に参加し、労働環境、健康と安全、環境管理、および倫理的なビジネス慣行の分野のサプライヤー評価が可能となりました。サプライチェーンデータをグローバルに共有するための世界最大のコラボレーションプラットフォームと、Sedexが用意したサプライヤーアンケートを使用して、倫理的なサプライチェーンを確保します。2020年、新型コロナウイルス（COVID - 19）の影響があり、Sedex上でリンクしたサプライヤー数を増やすことができず、2020年度と同じ約180社とのリンクを維持しています。高砂香料責任ある調達ポリシーの活動に関連して、Sedex SAQおよびSMETA監査を利用して、サプライヤーのESGステータスを確認します。今後もサプライヤーと持続可能な関係構築を行うため、新たなビジネスパートナーが取引を開始する際にSedexのメンバーになることを奨励し、優先度の高い既存のサプライヤーがSedexに参加するよう促していきます。

※3 PSPO：パーム油産業を環境への影響が少ない持続可能な産業に変えようとしているイニシアチブ。
※4 JaSPON：日本におけるパーム油の持続可能な調達と消費のためのプラットフォーム。

3）サステナビリティ：調達活動の発展

サステナビリティは高砂香料グループの戦略において不可欠な要素となっており、メーカーがこのコミットメントを示すことを消費者は期待しているものと考えます。

この期待に応えるために、天然原料の供給源の特定とトレーサビリティを通じた、強く責任を意識した自社の企業活動に取り組んでおります。この取り組みは、より優れた原材料や、我々の環境的、社会的価値を共有するサプライヤーを見出すということにもつながります。

さらに、天然原料の責任ある調達を優先と捉えることは、環境への影響を低減するための施策を実現することにもつながります。例えば、当社のメントール製造にも使用されている松由来のパインケミカル産業からの副産物・廃棄物利用や、アップサイクル原料のような、再生可能であり持続可能な方法で管理された代替源を見出していくことが可能になると考えます。高砂香料が2020年3月に発表した、パインケミカルのスペシャリストであるLAWTER B.V. 社の一部株式取得などは、この目的の一環といえます。そのようにして、さまざまな技術が、天然資源を枯渇させることのない持続可能な代替源の発見を助けるための中心的な役割を果たしています。

責任ある香料会社として、高砂香料グループは下記のような、環境と持続可能な香料成分を通じた製品提供に向けた基準の遵守に努めています。

- 調香のための原材料パレットとして、オーガニックとして認証された精油や天然成分といった天然の原材料、生物多様性の保護に配慮した原材料、責任ある生産活動を確実にするフェアトレード認証の原材料。
- 木材、紙、果汁産業などから生まれる副産物・廃棄物に含まれる成分を再利用する、いわゆるアップサイクルに当てはまる天然原料。
- パインケミカルのような、持続可能な天然資源であり、なおかつ少なくとも50%以上が天然由来の炭素で構成されているバイオベースの合成原料。
- サトウキビのような豊富な原材料と微生物による生合成によって得られるバイオテクノロジー原料。
- 2001年のノーベル化学賞に選ばれたキラル化学の技術を活用した優れた品質の合成原料。
  このキラル化学はその高い反応選択性から、香気への寄与が大きい成分を選択的に生成することができるため、副産物を減らすことにつながり、結果として資源の消費減少につながるというクリーンな生産活動となります。
- 化石資源から得られる原材料と比較してカーボンフットプリントが少なくて済む、環境への影響の低減につながる原材料。

これらの持続可能な原材料の活用により、お客様の期待に沿った責任ある企業活動を目指しております。

4）“*TaSuKI*” update

1．概要

昨今は、予測のつかないさまざまな逆風と世界各地でのロックダウンなどの厳しい状況が続いておりますが、私たちは2020年、2021年も*TaSuKI*（Takasago Global Procurement Sustainability Key Initiatives：戦

略的原料の持続可能な調達を目的とするプログラム）の展開に努めております。

幾つかの国々で*TaSuKI*の取り組みについて進捗を得ることができましたが、とりわけフランスのプロヴァンス地方にて、象徴的な原材料といえるラバンジングロッソに関する革新的なサプライチェーンプロジェクトの実施に至りました。

〈フランスのラバンジングロッソ〉

向こう10年間の先駆けとなるプロヴァンス地方における*TaSuKI*の取り組み

《農家からフレグランス製品へ》 ラバンジンオイルの供給に関する契約

2020年7月、高砂香料グループはラバンジングロッソ精油の購買に関してフランスの農協組織（SCA3P）との先進的な契約の締結に至ったことを発表いたしました。

この長期契約は、まずラバンジングロッソのライフサイクルに基づいてその契約期間が設定されたこと、そして今後の10年間を通して、高砂香料グループは相互につり合いの取れた安定した価格にてSCA3Pからラバンジングロッソ精油を購買することを表明しているという点で、先進的な契約であるといえます。

「プロヴァンス地方の象徴であり、ファインフレグランス製品、化粧品、ボディケア用品、ハウスホールド製品など最も広い用途を持つ素材のうちの一つであるラバンジングロッソは、そのほとんどがフランスで生育されており、明確な代替品の存在しない品目といえます」ということが当社Stéphane ZWAANS（the head of strategic procurement initiatives）の考えるところであります。

過去数年間、この品目は極めて不安定な市況に陥り、需要と供給は絶えず不均衡な状態でした。我々の目的は、供給面と価格面における不都合で極端な市況の不安定さを軽減させることによって、産業を支えるということでした。

サプライヤーとバイヤーの間に直接的で長期的なつながりを確立するという点で、この契約は生産者の売上げを改善するとともに、安定した収入が保証されることになります。

「我々農協組織としては、設備投資、事業拡大、農場の更新、精油収率の向上や抵抗性品種の研究を長期的な観点で計画することが可能となるでしょう」とSCA3Pの担当責任者Michel Krausz氏は語ります。「ラバンジングロッソが代々生育されてきたアルプ＝ド＝オート＝プロヴァンス地方とヴォクリューズ地方に主にかかわる、230の生産者たちから編成される協同組織の持続可能性に貢献することでしょう。」

プロヴァンス地方の香料植物の協同組合のようなサプライヤーを支援することによって、高砂香料グループは生産者と購入者の両方にとって公平な価格となるラバンジングロッソ精油の安定調達を確実なものとします。また、このような長期間にわたる緊密な協力関係は、投機や気候変動による不安定な状況下で、天然原料の安定した品質と安定した供給を確実なものとします。今回の取り組みは、トレーサビリティ、透明性、倫理的な調達活動に対する当社直接のお客様と末端消費者様のご要望を満たすだけではなく、商業的そして環境的な面でのベストプラクティスの実施を叶えるものとなります。

2. 進行中のプロジェクト

〈フロリダのグレープフルーツ〉

― 持続可能なグレープフルーツ：新たな植樹 ―
“*TaSuKI* Originals, Care and Comply”

高砂香料は2019年に長期的なグレープフルーツ産業の支援に署名し、生産者を直接支援するシトラス産業との強固な関係を再確認致しました。この取り組みにより、バリューチェーン全体を垂直統合し、足並みを揃えました。現在、植樹スケジュールに従い、約40%の新樹が植樹され、今後5年間で残りの60%を植える予定です。

すでに植えられている木には、今後3年以内にグレープフルーツが実ります。私たちは、この結果として得られる持続可能なグレープフルーツオイルを期待しており、フレーバーチームとフレグランスチームの両方のために、すでに独自のグレープフルーツオイルグレードを開発しています。

〈マダガスカルのバニラ〉

― 高砂マダガスカルからのニュース ―
“*TaSuKI* Originals, Care and Comply”

以前から予想されたとおり、現在マダガスカルのバニラ市場は混乱状態にあり、価格は2020年度の記録的な高値から崩壊しています。

この極端な変動と急激な値下げは、過去数年間の継続的な高値の恩恵を受けなかった多くの農民にとって困難な状況となりました。

高砂香料グループは、新型コロナウイルス（COVID-19）による制限を乗り越え、バニラ栽培農民をサポートすることを決定し、フェアトレード認証計画と、認証取得のメリットの展開を加速しています。

2020年2月、高砂マダガスカルとマダガスカルの共同経営者ラマナンドライベエクスポートは、マナナラ地域のバニラ生産者のグループとの幾つかの会議を開催しました。

ほとんどのバニラ農園はこの地域に孤立しており、効果的に運営するための基本的なインフラと情報が不足しているため、当初はマナナラに焦点を当てることが決定されました。

高砂香料グループのプロジェクトは、このような支援活動を歓迎する地元のバニラ生産者から好意的に受け止められました。このプロジェクトの初期の目的は、バニラ農家とそのプランテーションの詳細なマッピング、現在の状況の診断、改善の機会の提供、フェアトレード／有機認証取得のためのトレーニングです。

プロジェクトの初期段階では、合計487のバニラ生産者を擁する4つの農民協同組合が統合されました。

1. 持続可能性に関する協同組合代表者へのトレーニングと情報共有
2. 4つの協同組合とその487のバニラ生産者のマッピング＝物理的位置の特定作業
3. 認証取得に向けて、生産者に求められていることとその義務に関するコミュニケーション
4. 認証を取得後の将来の計画

バニラ生産者とともに準備段階を終了し、地元生産者なりの戦略で解決可能な、農業、技術、環境および社会問題を特定することができました。高砂マダガスカル、共同経営者のラマナンドライベエクスポート、および4つの協同組合が連携し、認証取得の準備が整いました。

マナナラのラマナンドライベエクスポートでのフェアトレード／Organicに関するバニラ生産者協同組合とのトレーニング

4つの協同組合によるオンサイトトレーニング（フェアトレード／Organic）

プランテーションに向かう途中の高砂マダガスカルチームと生産者

生産

高砂香料グループの全生産拠点では、同一の品質「高砂品質」の製品を不適合ゼロで製造することを目標として施策を進めるとともに、持続可能な社会形成に積極的に貢献するためのサステナビリティ活動をグローバル統一の活動として品質管理部門、EHS部門と連携しベストプラクティスを目指しています。

コーポレート生産ポリシー

グローバル機能領域において一貫した目的を持って生産活動やサステナビリティ活動を実施できるよう、コーポレート生産ポリシーを策定しています。

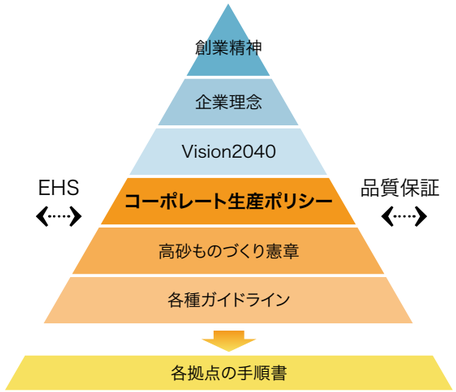
各拠点の特徴を活かすとともに、グローバルな活動において高砂香料グループとして統一感のある生産活動を推進することで、世界中のお客様に信頼していただける製品供給体制の構築を目指しています。

コーポレート生産ポリシー

私たちは生産活動において以下の事を実践します

- **安全・安心・安定した生産体制を堅持し、お客様のニーズに応える製品づくりに努め、供給責任を果たします。**
- **製造技術の向上と製造管理の徹底による高効率な生産活動を常に追求します。**
- **法令遵守を徹底し、人権の尊重、環境保全に配慮した生産活動を推進します。**

現在、「コーポレート生産ポリシー」を各国の製造拠点の実務に反映するため、「高砂ものづくり憲章」および各種ガイドラインの策定を進めています。



国際会議

生産部門を含めたさまざまな国際会議（Global Operations Directors Meeting, Global Supply Chain Management Committee Meeting, Global Plant Managers Meeting）を定期的に開催し、情報の共有や連携の強化、高砂香料グループ全体で実施する取り組みの推進につなげています。

左：Global Supply Chain Management Committee Meeting ／
右：Global Plant Managers Meeting

環境リスクへの取り組み

当社がグローバルで持続的成長をしていくためには、気候変動や異常気象による生産活動への影響を潜在的なリスクとして把握し対応することが求められます。生産部門として環境負荷低減に向けた取り組みと並行し、水リスクへの取り組みを進めており、全製造拠点でWWF（世界自然保護基金）ーDEG（ドイツ投資開発会社）の「Water Risk Filter」による水リスク評価を実施しました。

また、近年日本で発生した洪水等の自然災害対応で得た教訓や、その後の対策事例を国際会議（Global Operations Directors Meeting）で共有し、類似災害の対策強化につなげています。

ゼロ災推進活動の展開

ボトムアップによる労働安全衛生の実践活動として、日本国内の工場ではゼロ災推進活動を展開しています。

EHS部門によるトップダウンの活動に加えて、生産部門がボトムアップ活動を推進することで、働く人自らが安全な職場を形成していこうというモチベーションを持った安全衛生活動を推進し、ルールだけではカバーしきれない危険にアプローチし、より安全な生産活動を継続することを目指しています。また、当活動を通じて個々の危険に対する感度を上げることに加え、人権尊重の精神に基づいて働く仲間の安全にも配慮できる心を育み、将来の安全衛生活動を推進するリーダーを育成しています。

左／ 南海果工　危険予知訓練（KYT）の様子
　　危険の先取り手法を学び、製造現場で実践する
右／ 高砂フードプロダクツ
　　分電盤内のブレーカーの状態を指差呼称で確認している様子

進行中のプロジェクト〈GSAPプロジェクト〉

「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という創業精神は、私たちが生産する製品だけにとどまらず、現在進めているGSAPプロジェクトにも合致しています。

グローバルSAPシステム導入により各国単位、グローバルレベルで、需要、製造計画、在庫、供給情報をリアルタイムで把握することができるようになります。調達・生産・物流において最も効率的な方法で機能するための共通の基盤となるよう準備を進めています。具体的に期待される効果のうちサステナビリティの観点から幾つかご紹介いたします。

- **CO_2排出量削減**

  原材料の在庫、設備能力、キャパシティ等に基づいて、最も効果的な製造／供給地点を決定します。この可視性を持つことで、長距離輸送における環境負荷を最小限に抑えることができます。

- **廃棄物削減**

  リアルタイムで関連情報が可視化できることにより、供給計画プロセスを改善し、需要計画（予測）を継続的に改善することができます。在庫や生産計画の共有を通じて、グローバルでの原材料調達活動からの最適な配分に加え、継続的な需要のある拠点に資材を移転することにより、余剰在庫問題を迅速に対応することが可能となります。これらにより、すべての拠点が現在直面している過剰在庫が削減され廃棄物削減につながります。

物流

高砂香料グループでは、物流の指針として、持続可能な社会の実現を掲げる企業憲章の行動規範に則り、「コーポレート物流ポリシー」を定めています。

コーポレート物流ポリシー

- **安全・安心・安定した製品の輸送および保管体制を堅持し、お客様に対する供給責任を果たします。**
- **物流システムの改善による効率的な物流を常に追求します。**
- **法令遵守を徹底するとともに、人権を尊重し、地球環境にやさしい物流活動を推進します。**

環境負荷低減に向けて

気候変動緩和に向けた取り組みの一環として、SBTi（Science Based Targets Initiative）の基準に沿った数値把握を行っています。また、第三者機関による検証により、事業活動に伴う間接排出（Scope3）におけるカテゴリ4「輸送・配送（上流）」について、CO_2排出量算定データの信頼性を向上させています。

輸送における環境負荷低減のため、一部の生産拠点、物流センター間の輸送などでは積載効率の改善によるトラック車両数の削減に努めています。また、中長期の課題として、物流ネットワークの見直し、効率化による環境負荷低減に取り組んでまいります。

CO_2排出量削減に向けた活動指針を定めて、グローバルでの横連携を強化し、各拠点を交えながら議論を開始しています。

リサイクルへの配慮

輸出など一部の出荷ではリサイクルパレットを使用しています。不要となった梱包資材は、許認可を受けた処分業者により分別収集され、リサイクルされています。

お客様とのかかわり

飽くなき研究開発による高品質の追求、環境に配慮した商品開発の推進、また安全・安心を提供する品質保証体制の構築に努めております。

研究開発

研究開発本部の取り組み・方針

研究開発では、「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という新たな企業理念のもと、三つのイノベーション（コンセプト、プロダクト、プロセス）のシナジー、さらにはオープンイノベーションにより、独自性ならびに優位性の高い技術や製品を開発し、QOL（Quality of Life）向上やウェルビーイングに貢献しております。

環境面では、2021年に米国主催の気候サミットが開催され、2030年度までに温室効果ガスの排出量を2013年度比で46%削減するという日本の目標が宣言されました。当社におきましても、SDGsのグローバルな課題解決に向けた取り組みとして、グリーンケミストリーを念頭においた環境にやさしい研究開発を進めております。例えば、環境負荷の軽減に向けて、当社独自の触媒技術の活用や最新のバイオ技術の導入ならびに環境負荷の少ないプロセス開発により、エネルギー、水の効率的利用や温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。また、限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでいます。

Vision 2040に掲げた「人にやさしく、環境にやさしく」に則った研究開発を目指し、中期経営計画NGP-1では、下記の研究活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

- オープンイノベーションの推進ならびに独自性の高い情報資産創出の加速
- 環境負荷軽減、エネルギー効率に配慮したプロセス開発
- 再生可能資源や未利用資源を利用した素材・製品開発

イノベーション

代替タンパク食品向けフレーバー開発
── 環境と人にやさしい社会の実現に向けて

フレーバーにおいては、人と環境にやさしい製品づくりを常に念頭においたフレーバー開発に取り組んでいます。

2020年より世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス（COVID-19）によって、より快適に健康的に過ごそうという生活の質の向上を求める傾向がますます強まっていますが、そのような健康志向ニーズにも対応するため、当社では、減糖、減塩、減脂、アレルゲンフリー、動物性タンパク質フリー等に対応した、さまざまなフレーバーを開発しております。

また近年では、環境負荷を軽減するSDGsの考えや健康志向の高い菜食主義者の増加によって、動物性タンパク質の使用を避け、植物性タンパク質を使った食品の需要が国内外で増加しており、動物性タンパク食品とは異なる植物性タンパク食品が持つさまざまな風味的課題の解決にも取り組んでいます。例えば、国内の研究所のみならず海外の研究拠点とも連携しながら、分析技術、嗅覚および味覚の受容体アッセイ技術、アプリケーション評価技術等を活用し、異味異臭成分をマスキングできるフレーバー開発を行っています。

当社の風味改善系素材INTENSATES®シリーズは、「好ましい風味を付与する」「好ましくない風味をマスキングする」などさまざまな機能を有しており、課題解決に必要となる機能性素材を組み合わせたフレーバーが開発されてきました。植物油脂を当社の技術で加工した油脂感付与素材は、動物性油脂を使用できない、植物タンパク食品で不足しがちな油脂感を補う効果があり、フレーバーと併用することにより、植物性食品であっても、ごく微量の添加で動物性の油脂感を付与できます。また、当社のノウハウを用いて開発した、強い加熱調理風味を有する調理感エンハンサーシリーズは、ごく微量の添加で、味と香りに複雑さを付与できる調理向けペーストです。コクを付与することにより、植物タンパク食品にありがちな物足りなさをカバーして、おいしさを高める効果が期待できます。

これらのさまざまな香料素材や技術を活用または組み合わせることで、すべての人々においしさを提供できるトータルプランナーとして、QOL向上に貢献できる製品づく

りを目指しています。

嗅覚受容体技術を用いた体臭抑制香料の開発 ── 健康で衛生的な生活を IFSCC※2020横浜大会にて最優秀ポスター賞受賞

※IFSCC：The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists；国際化粧品技術者会連盟：世界中の化粧品技術者が、より高機能で安全な化粧品技術の開発へ向けて取り組む組織

清潔志向の高まりなどの生活環境の変化に伴い、体臭をはじめとするさまざまな悪臭が社会問題となってきており、不快な体臭に対するより効果的な消臭製品開発へのニーズもますます高まっています。これまでに多くの消臭技術が開発されてきましたが、中でも最もよく用いられるのが、感覚的消臭に分類される、香りによるマスキングです。このマスキング技術において、近年では嗅覚受容体（Olfactory Receptor：OR）テクノロジーの活用に大きな注目が集まっています。この技術は、悪臭に対してマスキング効果を持つ香料原料のスクリーニングを大幅に効率化するだけでなく、特定の悪臭に応答するORをアンタゴニスト（拮抗剤）によりブロックすることで、抑制したい臭いを選択的に低減することができる技術です。

当社では、ORテクノロジーを用いた体臭抑制香料の開発に焦点を当て、体臭の代表として加齢臭と腋臭に着目し消臭香料の開発を試みました。その結果、加齢臭・腋臭の各悪臭キー成分に応答するORを特定し、その活性を抑制する香料原料（アンタゴニスト香料）を見出しました。そして、見出されたアンタゴニスト香料は、悪臭キー成分の悪臭強度を実際に低減することが人の鼻を用いた官能評価により確認され、さらにこのアンタゴニスト香料を用いて創香された体臭抑制香料は、モデル体臭の不快感を大幅に低減することを実証しました。

このように新しい手法による新規体臭抑制香料の開発に成功しましたが、この方法論は高性能マスキング香料の開発効率を飛躍的に向上させると考えられます。この手法を用いて開発された香料が悪臭の不快感を低減させ、QOLの向上にも貢献することを期待しています。

再生可能原料を活用したアロマイングリディエンツ開発

アロマイングリディエンツ開発では、Vision 2040に掲げているように、人にやさしく、環境にやさしい素材開発を行っています。

当社のアロマイングリディエンツ開発の歴史は100年前にまで遡りますが、サステナビリティはまさに高砂香料グループのDNAです。当社のℓ-メントールは再生可能原料であるミルセンから製造されていることから、2020年にはUSDA（米国農務省）からBioPreferred®の承認をいただきました。

近年、高砂香料グループでは、さらにより多くの製品に再生可能原料を活用し、天然物に見出された生分解性の高い香料素材であるBiomuguet®やBiocyclamol®を開発、商業展開しています。また新たに、光学活性な香料素材としてウッディアンバー素材であるDextramber®も不斉合成技術を活用したChiraroma®として上市してまいりました。

不斉合成技術を用いた種々のアロマイングリディエンツ開発においては、これまで既存のラセミ体に対して、有効な光学活性体のみを選択的に製造する、すなわちCHIRAL SWITCHを行い、種々の製品開発を行ってまいりましたが、現在、新たにBIOSWITCH® というコンセプトのもと、市販の石油化学由来製品を再生可能原料や植物由来原料に切り替える新たなプロセス開発も精力的に進めています。

受容体アッセイ技術 ── バイオテクノロジーを活用した香料開発

ヒトは、感覚器官（鼻、舌、皮膚など）の細胞に発現している受容体を介して、感覚刺激（匂い、味、冷温感など）を受け取り、この情報が脳に伝わることで感覚を感じ取っています。高砂香料グループでは、遺伝子工学技術により感覚受容体を人為的に発現させた培養細胞を用いて、さまざまな成分による感覚刺激を客観的かつ効率的に測定する、受容体アッセイ技術を確立しました。

この受容体アッセイ技術は、開発の初期段階の香料素材を安全に評価することができ、官能評価において感覚が持続・蓄積するような評価が困難な香料素材も効率よく評価することができることから、現在では、新たなアロマイングリディエンツや、清涼感・温感をもたらすSensates®（センセート）の開発にも活用されています。

また、この技術は前述のように悪臭や異味異臭のマスキング研究にも活用され、マスキング製品の開発において悪臭や異味異臭にさらされる調香師またはフレーバリストの負担軽減にも貢献しています。この技術により開発されたマスキング製品は、その有効性が科学的に裏づけられており、強い匂いや味で悪臭や異味異臭を覆い隠す必要もないことから、消費者やお客様にとってより魅力的な製品になり得ます。これらの技術や製品を通じて、人々の快適な生活に貢献できることを期待しています。

結晶スポンジ法 ── アロマイングリディエンツ開発を支える新規分析技術の導入

香りの原点は天然物です。天然物の香り成分を詳細に突き止めることで香料科学、すなわち混合物を分離精製する技術や単離した成分の構造を決定する技術が進歩してきました。そして現在でも、有機化合物の構造決定は香料の研究開発の中で重要なパートを担っています。

従来、天然物や合成の有機化合物の構造を明らかにするための手法として、核磁気共鳴法（NMR）や高分解能質量分析、赤外吸収（IR）などの分光学的な分析手法がこれまで用いられてきました。直接有機物の構造を観測できる非常に有用な構造決定手法の一つである単結晶X線回折（SC-XRD）は世に出て100年以上経ちますが、この手法では目的物を単結晶として得る必要があるため、通常油状の液体である香料化合物に対してはこの手法を適用することは困難でした。

そのような折り、2013年に東京大学大学院藤田誠教授の研究グループにより「結晶化を必要としないX線結晶構造解析」いわゆる「結晶スポンジ法」が学術論文として報告されました。これまでのX線結晶構造解析の弱点である「結晶化」を克服し、かつ非常に少ない試料量（マイクログラム量）にて有機構造を観測できる非常に画期的な手法です。2017年に当社を含む11企業と藤田教授とで「東京大学社会連携講座　革新分子構造解析講座」を立ち上げ、結晶スポンジ法を産業界に浸透させるべく共同研究を開始しました。当社においては、2019年に単結晶X線回折装置の導入とともに本手法の活用を開始し、従来から有している構造決定技術にこの結晶スポンジ法を加え、よりケイパビリティを拡充することに成功しました。

現在，単結晶化する不斉触媒や配位子の構造を従来法である単結晶X線回折により直接観測することはもとより，天然由来の有用な構造不明の香気成分や合成ケミカルの構造解析にこの結晶スポンジ法を活用しています。

グリーンケミストリー

プロセスイノベーション ── グリーンな世界の実現に向けて

高砂香料グループでは、研究開発から製造に至るまで、グリーンケミストリーの12原則を常に念頭において活動を行っており、近年では、フロー技術を最大限に活用した安全でエネルギー効率の良いプロセスを実現しています。当社で実装してきたフロー技術からの知見は、従来のバッチ法にも展開されています。例えば、滴下法にフローのエネルギー管理の考えが取り入れられ、極低温の条件を避けることを可能にする、などです。プロセス開発を担う部門が、ファインケミカル研究部門およびアロマイングリディエンツ研究部門と密接に連携を取りながら業務を進めることで、研究の初期段階から製造プロセスにグリーンケミストリーが強く意識されています。

化学工学の視点、特に安全性やエネルギー削減などは、グリーンケミストリーの重要な要素です。プロセス開発研究所では、安全の確保やエネルギー的に有利なオペレー

ションの実現につなげるべく、化学工学の専門家により反応工学的なデータの収集が行われ、それらは各基礎研究所にフィードバックされています。これにより、研究開発期間の効率的な削減も可能となっていますが、当該リソースは常にフル稼働に近い状態であるため、今後も見据え、磐田工場に新たに研究開発設備を増強しました。これにより、一層グリーンなプロセスの開発が、研究開発の初期段階から促進されることが期待されます。これら化学工学的な活動の強化は、触媒技術など、化学の深化とも相まって、より一層グリーンな世界の実現に貢献できるものと考えています。

優れた触媒の開発
── 環境負荷低減への取り組み

当社では、グリーンケミストリー実現への取り組みとして、化学量論量から触媒反応への置き換えに挑戦しています。ケトンを有する化合物は香気成分として有用なものが多く、数々のアロマイングリディエンツが開発されてきました。一方、それらの合成に用いるアルキル化反応は、(アルコールから誘導される)ハロゲン化物をアルキル化剤とするのが一般的ですが、ハロゲン化物の毒性の問題に加え、化学量論量の塩廃棄物が発生するという問題を伴います。私たちはこの問題を解決するために、アルコールの水酸基を直接置換する新しいイリジウム触媒を開発し、上述した安全性と環境負荷の問題を解決しました(*Org. Process Res. Dev.* **2020**, *24*, 2772−2779.)。この新しい触媒は、アルキル鎖が伸長した種々のケトンの合成に適用可能です。

ホワイトバイオテクノロジー技術を活用した
ナチュラルアロマイングリディエンツ開発

ホワイトバイオテクノロジーは、グリーンケミストリーを推進する重要な技術の一つであり、グリーンケミストリーの条件を満たす酵素や微生物による物質変換技術は、SDGsにも貢献する技術であると考えています。さらに、近年のナチュラルフレーバー素材に対する市場ニーズにより、バイオ技術を活用した素材開発は一層重要となっており、フレーバリストの要望を満たした当社のスペシャリティ素材の開発を目指し、EUナチュラルやKosher、Halalの規制を満たすプロセス開発にも注力しています。

ナチュラルアロマイングリディエンツの製造は、関連子会社である高砂フードプロダクツや2016年にグループ化された米国Centre Ingredient Technology, Inc. (CIT)などで行われています。CITは高度な製造技術および試作設備を有し、正確な反応制御やモニタリングによる流加培養も可能であり、薄膜蒸留装置に代表される高い精製技術も有しています。CITの主要な製品にはgamma - decalactone、gamma - octalactone、gamma - nonalactone、phenylethyl alcohol、hexanalなどがあり、2020年には新たに当社のスペシャリティ素材の製造も開始されるなど、今後のフレーバー開発への貢献が期待されます。

また、2020年には経済産業省が主催する「ゼロエミ・チャレンジ企業(脱炭素化社会の実現に向けてイノベーションの取り組みに挑戦する企業)」の一社として認定されTCFDサミット2020の場において公表されました。

当社の研究開発では、中期経営計画NGP - 1において、「SDGs(持続可能な開発目標)とGSC(グリーンサステナブルケミストリー)を考慮した環境に優しい研究開発」を目指しています。Vision 2040に掲げていますように、「自然との共生(Symbiosis)」を掲げてサーキュラーエコノミーへの貢献、バイオエコノミー社会の実現へ向けてより強力に脱炭素社会の実現に対する研究開発を推進してまいります。

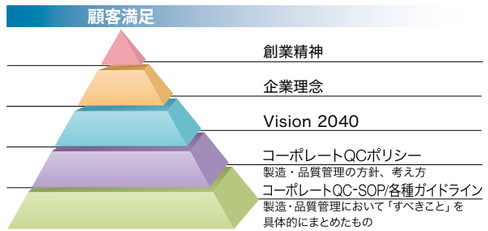
品質保証

高砂香料グループは、お客様の製品品質と安全に対するニーズやご要望にお応えするために、価値あるパートナーとしてお客様とともに歩み続けることをお約束します。

品質保証体制

高砂香料グループ品質保証部門(QAHQ)の使命は、政府機関、顧客、また業界団体により定められた法規制および安全基準に準拠した、安全・安心かつ信頼性の高いフレグランス、フレーバー、アロマイングリディエンツ、ファインケミカル製品を提供し続けることです。

品質保証部門は独立した組織であり、「高砂香料グループ品質保証理念」のもと、各国の品質保証部門が一つになったOne品質保証体制を構築しています。この体制には、本社機能としてグローバルQCセンターおよびグローバル法規センターを配置し、各国の品質保証部門と密接に連携を取っています。また、コーポレートSOP※と各種ガイドラインの作成を行い、グループ全社で標準化された業務フローに基づき適切な形で品質保証活動を行っていることを確認しています。このようにして、高砂香料グループは世界中のすべてのお客様に、ご満足いただける品質を提供できるよう体制を整備しています。



※SOP : Standard Operating Procedureの略で、標準作業手順書のことを指す。業務を均質に遂行できるように作成された作業手順書。

QCポリシーおよびガイドライン

コーポレートQCポリシーは、グローバルで一貫した品質理念を浸透させるべく、創業精神、企業理念、Vision 2040を踏まえ、お客様の期待にお応えできるよう策定されています。すべての事業部門およびすべての地域の品質管理部門において詳細な品質管理手順を標準化するために、コーポレートQCポリシーを上位に置く形でグローバルQC - SOPを補完文書として作成しています。また、より詳細な業務運用が書かれた各種ガイドラインは、各国の品質管理手順書および運用にも組み込まれ、グローバルで統一した品質管理ができる体制を整えています。

国際会議

お客様や市場のニーズに合った安全・安心な品質を提供していくために、定期的に品質保証部門の国際会議を開催し、最新の法規制への対応やQCポリシーおよびガイドラインの更新について協議しています。また、共通する課題や懸案事項を議論し、解決に向けた取り組みの実施や水平展開を図っています。この会議を通じ、全世界のすべてのお客様に同じレベルの品質とサービスが提供できるよう継続的に改善しています。

例えば、グローバルQCセンターでは、四半期ごとの電話会議や半年ごとの国際会議を通して全拠点のQCリーダーと、情報交換、ベストプラクティスの共有と活用、KPIの設定と測定、改善に関する情報共有とその効果等の議論の場に活用しています。

専門技能トレーニング

品質とサービスをより良いものに改善し維持していくために、グローバルQCセンターが国内外すべての品質管理部門に対し、官能評価や検査技術などに関するさまざまなトレーニングを実施しています。

このトレーニングシステムは、世界中のすべての顧客に同じ高品質のサービスを提供し、高砂製品が一貫して顧客のすべての要求を満たすか、それを上回ることを保証するための鍵となります。最近のフレーバーQCトレーニングでは、官能検査、ガスクロマトグラフィー、メンテナンス手順、ラボ環境の維持のためのベストプラクティス、さらに特定の分析分野を改善・強化するために、拠点のニーズに応えることも目的としています。加えて、ISO/IEC17025スキームに基づいた技能試験を実施することにより、検査技能を標準化し、最高レベルで維持するだけでなく、検査担当者の意欲を高めることにつなげています。フレグランスQCトレーニングでは、天然原料や最終製品

の嗅覚トレーニングを行い、それらの複雑な性質や特徴を把握することにより、原料・製品の品質の許容水準を共有するための議論も行われました。トレーニング終了後、テクニカル・レファレンスとして妥当性が確認された参加者は、自身の拠点にて日常的な嗅覚トレーニングを支援・指導し、フレグランスQCセンターの官能面での窓口として活動します。すべてのトレーニングの結果は各拠点の責任者へ迅速に共有されると同時に、必要に応じて課題設定が行われる仕組みになっています。これらのトレーニングは、世界中のお客様に最高品質の製品を提供し続けるための重要な取り組みであり、高砂製品の品質の標準化に寄与するだけでなく、「One TAKASAGO」としてのQCチーム間のチームワークの向上にもつながっています。

コンプライアンス

法令・規制を遵守することをコーポレートQCポリシーに掲げています。また高砂香料グループは安全かつ持続可能な化学物質の使用を進める欧州REACH規制を全面的に支持しています。EU内で製造または輸入する化学物質の最終登録期限であった2018年には、すべての関連する物質を期限までに登録し、規制実施に積極的に貢献しました。REACH規制は継続的な取り組みが必要であり、登録した化学物質を安全かつ持続可能に使用するために必要な追加データをECHA(European Chemicals Agency／欧州化学品庁)および関連機関に提供する体制を整えています。また韓国REACHやトルコREACHといった管理規制にも焦点を当てて注視しています。グローバル法規センターは、法規制、顧客要求、またFEMA(Flavor and Extract Manufactures Association／米国食品香料工業会)、IFRA(International Fragrance Association／国際香粧品香料協会)、RIFM(Research Institute for Fragrance Materials／香粧品香料原料安全性研究所)、IOFI(International Organization of the Flavor Industry／国際食品香料工業協会)など業界団体からの基準およびガイドラインの改定に対応するため、継続的に情報収集を行っています。製品が安全・安心かつ信頼されるよう、グローバルでのタイムリーな情報共有を通じてコンプライアンス対応を図っています。

品質保証に関する認証

高砂香料グループは求められた品質を製造し提供できるよう、ニーズに合わせてISO9001、FSSC 22000／ISO22000、GFSIなど、国際的な品質・食品安全の管理運用のための認証取得を進めています。最近では、インドネシアにフレーバーおよびフレグランスの製造工場を新設し、2020年3月にISO9001、そして2020年4月にフレーバーではGFSI承認規格であり、世界の食品関連企業に支持されるFSSC22000の食品安全マネジメントシステムの認証を取得しました。このような国際標準システムの導入は、国内外のグループ会社を含む全社的な取り組みであり、国際規格の適切な運用は、グローバルで標準化を推進すると同時に、品質とサービスの向上にも役立てられています。

コーシャ、 ハラール

私たちは、地域の文化や習慣を尊重した製品づくりにも積極的に取り組んでいます。地域の文化や習慣の中には、宗教上の戒律として厳格に遵守しなければならないものもあり、そのような戒律に適合し、安心してお使いいただける製品の拡充に努めています。

宗教上の戒律として代表的なものに、ユダヤ教によるコーシャ、イスラーム教によるハラールがあります。これらはともに「許されたもの」の意味であり、それぞれの信徒たちが安心して生活する上での根本的な意味をもって厳格に遵守するものです。

コーシャは主にアメリカを中心に、アメリカの事業所から供給される製品に対して対応しています。

ハラールは主として東南アジアを中心に、シンガポール、マレーシアの事業所から供給される製品に対応しています。

日本においても、アメリカや東南アジアの事業所や得意先に向けた製品や製造中間品を供給しており、従来からコーシャに適合した合成香料や食品香料を供給してきましたが、これに加えて、当社の主力製品であるℓ-メントールもハラールに適合しています。今後さらにコーシャ、ハラールに適合した製品を増やしていき、グローバルに地球環境に配慮し、地域の文化や習慣にとっても安心できる製品の製造と供給を今後一層充実させてまいります。

品質監査

品質管理体制をさらに強化するため、グローバルQCセンターは定期的に国内外の製造拠点に対し実地で品質監査を実施し、システムの継続的な改善を図るとともに、定められた要求事項・基準を満たし、高砂香料グループの事業計画・目標・品質管理方針に沿ったものであることを確認しています。

顧客の安全衛生

高砂香料グループの主要な事業は、フレグランス、フレーバー、アロマイングリディエンツ、ファインケミカルの4部門で構成され、幅広い製品を開発、製造しております。製品づくりの一環として、すべての製品がお客様の安全衛生に適合しているかどうかを常に評価しています。この考え方は、研究開発段階から製品の製造・納入にいたるまで適用されています。報告期間において、各種規制や自主規範に対する違反は確認されておりません。

販売先と表示

高砂香料グループの製品はBtoBのビジネスモデルであり、最終消費者の皆様に直接販売されることはありません。フレグランスおよびフレーバーは消費財を製造する得意先に販売され、消費者向け最終製品に使用されています。アロマイングリディエンツ製品は同業他社に販売され、フレグランスやフレーバーの原料として使用されています。ファインケミカル製品は医薬品や化学品を製造するための中間体として使用されています。製品を販売する際には、各種規制や得意先要求事項に応じた製品情報を提供しております。製品情報には通常、次に示す一つ以上が含まれます。

高砂香料グループの製品の製造に使用する原料の情報をもとにする

- 製品の構成
- 安全データシート
- 安全に使用するための情報

報告期間において、製品情報やラベル表示に関する違反は確認されておりません。

進行中のプロジェクト[GSAPプロジェクト]

世界各国に展開するグローバルビジネスの強化を目的に、拠点ごとに導入されているそれぞれのERPシステム※の統合を目指し、GSAPの導入を進めています。

グローバルレベルで品質管理情報を一つにまとめ上げ、リアルタイムで正しいデータを見える化させることは、全社リソースの最適化につながります。

現在、高砂香料グループにおける品質関連業務はOne QAQC Conceptのもと、グローバル運用ルールを策定し、品質計画、品質管理、品質保証の盤石な運用体制を構築し、十分な品質管理の運用基盤を構築してきています。

SAP QMモジュールの導入により、構築した運用をシステムに落とし込むことができ、原料および製品に係わる品質管理、原料在庫との連携や顧客連携機能が強化され、グローバルでのシームレス運用、一元管理、作業標準化、ペーパーレスが達成可能となります。

ラボのプロセスの一元管理により、メソッドとプロセスのワークフローが標準化され、意思決定とアクションの自動化がヒューマンエラーを抑えることができ、作業効率の向上が期待できます。

世界各国どの拠点でも同じ品質管理体制のもと、顧客への高品質のサービスが一貫して提供できるようになることを我々グローバルQAQCチームは目指しています。

※ERPシステム:基幹系情報システム

投資家の皆様とのかかわり

健全かつ透明性の高い企業経営による持続的な成長を通じて、適切な利益還元に努めるとともに、国内外の株主・投資家の皆様とのコミュニケーション環境の充実を図っていきます。

適時・適切な情報開示

インベスター・リレーションズ（IR）

高砂香料グループでは、株主・投資家の皆様に対し積極的な情報開示を行っています。

株主の皆様には、年2回「株主通信」を郵送でお届けしています。投資家コミュニティの拡大に向けて、ウェブサイトでのIRサイトにおいて関連資料やプレスリリースを公開しており、皆様に事業内容への理解を深めていただけるようIR活動の向上に努めています。

機関投資家・アナリスト向けには、期末および第2四半期の決算発表後の年2回、社長および役員による決算説明会を開催しています。2021年3月期の決算説明会は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症への対応として、テレフォンカンファレンス形式で行いました。内容については、IRサイトにて公開しております。

株主総会・株主還元

株主総会

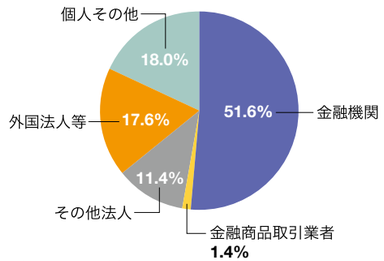
より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、いわゆる第一集中日を回避した開催日程としています。招集通知の早期発送に努めており、株主総会開催の3週間前までの発送および発送日前までのインターネット開示を実施しています。また、当日ご欠席の株主の皆様の利便性向上のため、インターネットによる議決権行使環境の整備も行っています。

株主還元

株主重視の経営を旨として、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、ならびに業績水準等を勘案した配当を実施することを基本方針としています。この方針を踏まえ、2021年3月期は、中間配当は1株当たり25円、期末配当は30円を実施し年間55円の配当を実施いたしました。2022年3月期は中間配当25円、期末配当25円の年間50円を予定しております。

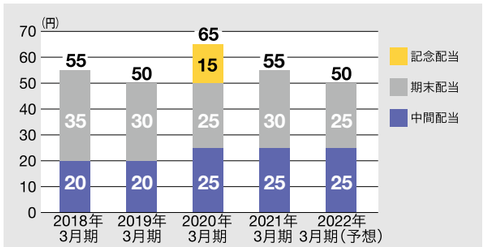
資本政策の中での株主還元は、事業活動や、非事業資産の売却などで得られたキャッシュフローを、「成長分野への投資」「財務基盤の強化」「株主還元」の3つにバランスよく配分していくことで対応していきます。

●株式分布図（所有者別構成比）



（2021年3月31日現在）
（注）個人その他には、自己株式としての保有分（2.7%）が含まれております。

●1株あたりの配当金



地域・社会とのかかわり

高砂香料グループは、地域の方々と良好なコミュニケーションを図りながら、ボランティア活動や地域交流に積極的に参加しています。また、香料会社の特性を活かし、多くの方に香りへの親しみを深めていただく活動に取り組んでいます。

国内の取り組み

災害備蓄食料を地元NPO法人へ寄付

賞味期限間近の災害備蓄食料を地元のNPO法人へ寄付しました。このNPO法人は、ひとり親家庭などに無償で食品を届ける活動を行っており、当社からの申し入れに対して「賞味期限まで1カ月あれば助かります」との回答があったため寄付しました。賞味期限が切れてしまってからでは廃棄するしかない災害備蓄食料を、発想の転換により有効な資源として活用することができました。

「香りデザイン東京展」で香りのセミナーを開催

2020年11月13日、東京ビッグサイトの「香りデザイン東京」において、当社フレグランス研究所所属のパフューマーが「パフューマーが創る香りの世界」と題したセミナーの講師を務めました。講演内容は、フレグランスに使用する香料原料とパフューマーがその原料を使ってどのようにイメージを香りに転換していくのかという香料と創香についてで、業界関係者を含め50名程度集まった参加者は配布された香りを興味深く嗅いでいました。香料業界のリーダーとして、今後も香りについて積極的に発信していきます。

日経産業新聞広告賞【最優秀賞】を受賞

「第47回日経産業新聞広告賞」の受賞作品が発表され、当社創業100周年広告（2020年2月6日、7日掲載）が最優秀賞に選ばれました。2020年度はすべての賞・部門での応募手続きがなくなり、応募要件を満たす広告すべてが応募登録がされ、応募総数10,385点の中から栄えある受賞となりました。

「レトロ感を出しながらも上品にまとまっていた。オーソドックスではあるものの、これまでの歩みと今後のビジョンが明確に伝わり、周年広告をコミュニケーションのポイントとして検討する多くの企業にとって参考になる作品」という講評をいただきました。

12月8日の贈賞式の様子

高砂の香料素材が香料業界で初めて米国農務省のBioPreferredラベルを取得

2020年4月22日、当社はℓ-メントールを含む三つの当社製品に関して、米国農務省（USDA）からバイオベースド100%なBioPreferred製品としての承認を得ました。当社のバイオベースドなℓ-メントールは1954年に始まり、その後はℓ-メントールだけでなく数々のバイオベースドなアロマイングリディエンツ製品を開発・上市してきました。このたびの米国農務省からのBioPreferred認証

は、これまでの継続的努力の結果であると考えます。今後も、技術立脚により、持続可能社会および生物多様性の保持への貢献を目指します。

海外の取り組み

フランス

高砂フランスでは、“Les Cantines du Sourire”というプロジェクトに参加しました。

セネガルの学校に通う児童にバランスの取れた朝食（パンにバターまたはジャム、ミルク、フルーツ）のための資金を提供するというものです。これにより栄養失調の児童を減らすとともに、彼らの教育を保障することもつながります。高砂フランスからの寄付により、4,500食以上の朝食を児童に届けることができました。

シンガポール

高砂シンガポールでは、近隣学校に通う生徒を受入れ、生徒たちが各自オリジナルの飲み物を作る演習授業を見守りました。これは「希釈の計算」に対する演習で、生徒たちは思い思いのフレーバーを調合したのち、電子天秤やスポイトを用いて水と混ぜて飲料を作りました。学校で学んだ知識が実社会に存在する身近な商品づくりにどう結びつくのかを実感する、良い機会となりました。

ブラジル

高砂ブラジルでは、NGOのItacolomiと協力して、若者たちに労働市場への訓練や心構え、慣れを与えることを目的とした実習プログラムを実施しました。このプログラムでItacolomiは、15～18歳を対象に、芸術、文化および社会的教育活動を行います。これは「共に生き、家族とコミュニティのつながりを強化する」ためのサービスで、初等学校を補完し、このプログラムに参加する若者に初めての仕事を与えることで、彼らの家族に副収入を提供することを目指しています。

若年雇用特別契約は、18カ月未満の期間限定で、その半分はItacolomiの学校で理論的な学習を行う期間であり、残りの半分はその知識を毎日の労働で生かすための高砂ブラジルでの実習期間になっています。

文化活動としての取り組み

高砂コレクション®

香りの歴史は5000年以上ともいわれ、人類は長い歴史の中で独特な香り文化を形成してきました。当社には香り文化をつたえる目的でコレクションされた美術品が多数あり、それらを「高砂コレクション®」として一般に公開しています。本社にあるギャラリーでは、日本の伝統芸道をつたえる香道具、香炉、香合をはじめ、中国の香炉、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、そして18世紀から現代に至る香水瓶など約1,000点に及ぶコレクションの一部を展示し、ご来場いただいた方々にご覧いただいています。

【高砂コレクション・ギャラリーのご案内】
東京都大田区蒲田5-37-1
ニッセイアロマスクエア17F
【開覧時間】10:00～17:00
（入室は閉室の30分前まで）
【定休日】土日祝日、年末年始、当社休業日
※10名以上の場合は事前予約が必要
（2021年10月現在、新型コロナウイルス（COVID-19）予防および拡大防止のため休館中）

また、2020年2月9日に迎えた創業100周年を記念し、展覧会「香りの器～高砂コレクション」を開催しました。コロナ禍で開催が心配されましたが、三重、東京、京都、秋田と場所を移し、それぞれの会場で無事に開催、大好評のうちに閉幕しました。イベントを通して、香り文化を醸成し、顧客や地域の方々との関係性を深めていきます。P62にも展覧会の様子をご紹介しております。

EHS報告

Environment（環境） | Health（健康・衛生） | Safety（安全）

» EHSマネージメント

グローバルEHSマネジメント

安全統括本部安全管理部では、高砂香料グループのEHS Missionを策定しました。

EHS Mission

高砂香料グループは持続可能な EHS 文化を構築するために、以下を実行します。

- 当社事業に適用される法令およびその他要求事項、ならびにステークホルダー要件に対応します。
- 事故、病気、環境への悪影響を回避するために、私たちの活動に内在するリスクを特定して管理します。
- 天然資源の保護、汚染の防止、温室効果ガス排出量の削減を計画し、環境負荷低減を実現します。
- 事業計画と意思決定に EHS の要素を組み込みます。

また、2021年度から2030年度までのサステナビリティ推進10ヵ年計画である、「Sustainability 2030」において気候変動（温室効果ガス（GHG）排出量の削減）、環境負荷の低減（資源の持続可能な利用と汚染の防止）、労働安全衛生の推進などのEHS活動に関する目標を設定しました。

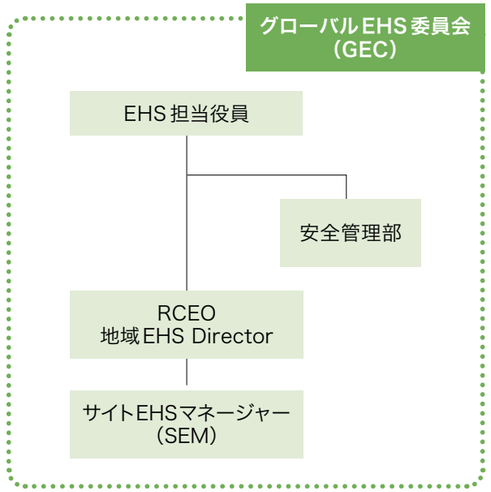
高砂香料グループでは、EHS活動の標準化を推進し、グローバルに計画を実行するために、GEC（Global EHS Committee：グローバルEHS委員会）を組織しています。GECは、以下のメンバーで構成されています。右図はGECの組織図を示しています。

- EHS担当役員
- RCEO
- 地域EHS Director
- サイトEHSマネージャー（SEM）
- 安全管理部

EHS宣言

高砂香料グループは、グループ経営の基盤の一つとして「EHS宣言」を制定しています。

● グローバル EHS 委員会（GEC）



このEHS宣言は、高砂香料グループのEHS活動におけるビジョン・価値観を世界28カ国のすべての従業員と共有するために、11の言語で作成されています。EHS宣言において、すべての事業活動に対し、EHSを最優先の行動原則とすることとしています。

» 環境

エネルギー/大気への排出

高砂香料グループで使用されるエネルギーのほとんどを生産現場やオフィスで使用するための購入電力で賄っています。

高砂香料グループは、CO_2排出にかかわるエネルギー使用量を削減するために、省エネ・省資源型の設備やプロセスの採用、空調の温度設定の適正化など、さまざまな方法で取り組んでいます。

さらにCO_2排出量を削減するために、各拠点の状況、事業所やステークホルダーのニーズを分析し、再生可能エネルギーなどCO_2排出量の少ないエネルギー源への切り替えを積極的に進めてまいります。

新たな目標

高砂香料グループは、SBTi（Science Based Targets Initiative）に基づき、1）Scope1およびScope2の直接排出量を2030年度までに2019年度比で27.5%削減、2）Scope3の排出量を2030年度までに2019年度比で13.5%削減するという目標を設定しました。

2020年度の結果について

» Scope1、2 排出量

2020年度は、事業活動の順調な成長に伴い、グループ全体のエネルギー消費量は前年に比べて6.3%増加しましたが、排出量については再生可能エネルギーの利用拡大に努めた結果、2019年度と比較して4.1%減少しました。

» サプライチェーン（Scope3）排出量

高砂香料グループでは、2020年度の活動結果をもとに温室効果ガスの排出量の第三者検証を受けました。検証の結果では、高砂香料グループは、カテゴリー1（調達活動）からの排出量が最も多いことがわかりました。

● 各カテゴリの排出量

		CO_2 排出量（t）	温室効果ガス総排出量に対する比率
Cat1	購入した製品・サービス	728,202.48	84.83%
Cat2	資本財	20,805.00	2.42%
Cat3	Scope1, 2 に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	12,477.86	1.45%
Cat4	輸送、配送（上流）	19,795.26	2.31%
Cat5	事業から出る廃棄物	5,367.07	0.63%
Cat6	出張	6.50	0.00%
Cat7	雇用者の通勤	5,440.42	0.63%
Cat8	リース資産（上流）	-	-
Cat9	輸送、配送（下流）	-	-
Cat10	販売した製品の加工	-	-
Cat11	販売した製品の使用	-	-
Cat12	販売した製品の廃棄	814.67	0.09%
Cat13	リース資産（下流）	66.98	0.01%
Cat14	フランチャイズ	-	-
Cat15	投資	-	-
Scope3	（総量）	792,976.23	92.38%
Scope1		32,457.00	3.78%
Scope2		32,961.00	3.84%
温室効果ガス総排出量		858,377.69	

※対象範囲：高砂香料グループ （−）は算定方法検討中または対象外
対象年度：2020 年度

水と廃水

高砂香料グループは、事業活動を安定的に継続していく上で、水は必要不可欠な資源であると認識しています。

現在、国内外の生産拠点では十分な水量と安定した品質の水が確保されていますが、気候などの状況の変化により、利用可能な水量や品質が低下する等のリスクが高まることをあらかじめ想定し、生産拠点における水使用量の削減や再利用の可能性等を検討してまいります。

高砂香料グループ全体の水源別の取水量や放流先別の排水量等の数値は、環境データ管理システムである「T-ReCS®」で収集・監視しています。

● 水源別の取水量

取水 (ML)	2019	2020
上水道	617.43	607.48
工業用水	455.47	446.07
地表水	0.05	0.04
地下水	2,171.32	2,110.91
総取水量	3,244.27	3,164.49

高砂香料グループの一部の生産拠点では、生産の目的で許可された量の地下水を取水しています。

● **水源別の排水量**

排水 (ML)	2019	2020
地表水	2,710.66	2,610.76
地下水	0.00	0.13
第三者（地方自治体の処理施設等）	387.29	383.77
総排水量	3,065.55	2,994.67

河川放流を行っている生産拠点については、放流前に生化学処理を行い所在地域の法令や条例等で定められた排出基準内まで浄化した水を放流しています。

● **水消費**

	2019	2020
総水消費量 (ML)	146	170

廃棄物

高砂香料グループは、グループ全体で分別の推進による有価物化および製品の設計や生産工程を改善するなど、廃棄物の総排出量の削減に努めています。廃棄物として排出する場合は再生利用を優先し埋め立て処分する量を減らすことにも取り組んでいます。また、処理業者を適切に管理し、不法投棄などの不適切な廃棄物処理を防止しています。

● **廃棄物排出量（処分方法別）**

有害廃棄物 (MT)	2019	2020
有害廃棄物の総発生量	1,502.14	1,367.60
リサイクル	1,273.71	1,214.82
減量化	153.91	105.03
埋立	74.52	47.76

非有害廃棄物 (MT)	2019	2020
非有害廃棄物の総発生量	18,208.46	15,460.11
リサイクル	13,920.44	11,400.16
焼却	3,553.68	3,542.07
埋立	734.34	517.88

2020年度は、グループ全体で発生する廃棄物のうち、3．3%が埋め立て処分されています。

環境コンプライアンス

高砂香料グループでは、コンプライアンスは経営上の最重要課題の一つであると考えています。

環境コンプライアンスについては、適用項目、適用基準、測定基準、適用要件を明確にしたISO14001環境マネジメントシステム（EMS）のプロセスに基づいて管理するために、EHS、安全、災害対策、法規制、社会的ニーズなどの最新情報を入手するためのプロセスを構築しています。

» 労働安全衛生 (OHS)

安全衛生マネジメントシステム

高砂香料グループでは、環境マネジメントシステムであるISO14001の認証取得に加え、労働安全衛生マネジメントシステムであるISO45001の認証取得をグローバルで推進しています。2020年度には高砂香料グループの国内生産拠点がISO45001の認証を取得しました。また、2021年度には国内の研究開発本部と、海外生産拠点のうち8拠点がISO45001の認証取得を目指し準備を進めています。

インシデントレポートルールとインシデント調査

高砂香料グループではEHS関連のインシデント（労働災害を含む）に関する報告ルールを策定しています。この報告ルールにしたがって、国内外のサイトで発生するインシデントが適時適切に他のサイトに共有されることになっています。インシデントの原因を調査することは、同種または類似のインシデントを防ぐという点からも非常に重要と考えています。そのため、各サイトからインシデントに関する報告を受けた後、インシデントの概要、根本原因、是正対策を確認し、フィードバックを行うとともに、国内外で開催される各種会議において協議を行っています。各サイトではこれらの報告およびフィードバック、さらには各種会議における協議結果に基づき、自サイトで同様のインシデントが発生しないように対策を講じています。

危険源の特定、労働安全衛生リスクアセスメント

高砂香料グループでは、労働安全衛生リスクアセスメント（以下、「OHS RA」）ルールを所在国での法令上の不一致がない限り国内外のすべての生産拠点に適用しています。各生産拠点では、このルールに基づき、職場における事故・労働災害の原因となる危険源を特定し、予見可能なリスクへの予防措置を行っています。安全管理部は、OHS RAをグローバルで強化するために、労働安全衛生規則の補足手順の構築に取り組んでいます。

コミュニケーションと現場確認

高砂香料グループでは、国内においては国内EHS会議を年に2回以上開催し、また、海外においてはグローバルEHS会議を年に4回以上開催し、EHSに関する情報の共有化を図っています。

グローバルEHS会議の様子（2021年4月開催）

また、安全管理部では、国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターに対し定期的に安全監査を実施し、各拠点の安全衛生活動・事故労災等の確認を行っています。2020年度は新型コロナウィルス（COVID-19）の影響で実地による現場確認はできませんでしたが、リモートによる安全監査を継続的に実施しました。さらに、国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターの安全管理を担当する責任者と本社役員および関係者が参加し、月次の安全協議会を開催し、EHS関連法改正や各拠点での安全監査で確認された課題等の情報共有および労働安全衛生対策についての話し合いを行っています。

さらに、毎年、海外の複数の生産拠点に対しEHS監査を実施しています。2019年度、安全管理部は、米国、インド、シンガポールの現場でEHS監査を実施しました。安全管理部は、これらの監査においてEHS要求事項の詳細を説明し、各生産拠点における活動の進捗状況を確認し、EHS上の諸問題について話し合い、ベストプラクティスを共有しました。国内の安全監査同様に、新型コロナウィルス（COVID-19）のため、2020年初頭から現地調査は中止されていましたが、安全管理部はリモートによるEHS監査の実施を検討し、メキシコの生産拠点に対しEHS監査を実施しました。安全管理部では、COVID-19が収束し、現地調査が再開できるようになるまで、リモートでのEHS査察を継続し、グローバルサイトでのEHS活動を確実に実施します。

労働安全衛生に関する社員教育

安全管理部は、すべてのサイトの2020年度の外部審査が終了した後に、審査結果の検証を実施し、GECにおいて報告を行いました。また、2021年度にISO45001の認証取得を目指す国内の研究開発部門および海外の8生産事業所に対して、2020年度に認証取得を完了した国内サイトのISO45001の外部審査の結果を共有しました。

労働災害・疾病データ集計

安全管理部では、ISO14001およびISO45001のグローバルマルチサイト統合認証に向けて、労働災害や疾病などのOHSデータをT - ReCS® で集計することを決定し、より効率的にデータを集計する仕組みを構築しています。

Putting safety above all else

安全の日 Safety Day 2021

高砂香料グループでは、4月10日を安全の日と定めています。毎年この日には、2013年に発生した平塚工場での火災事故を教訓に、「二度とあのような事故を起こしてはいけない」という決意を新たにし高砂香料グループのすべての拠点において安全活動を実施しています。

今回で8回目となる2021年は、『緊急時対応とその検証』をテーマに掲げました。2021年も新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の影響により2020年と同様に感染防止対策を講じた上で、コアタイムの活動として訓示・説示の掲示、ビデオ視聴を行い、事業所ごと、部署ごとに工夫を凝らしながら教育・訓練を実施しました。

職場において事故・労働災害が発生した場合、周囲の仲間とどのように連携し、どのように対応するのか、手順などで定められていることが実際に実行可能なのか等々を考えながら、「緊急事態」への対応と検証を行い、有意義な「安全の日」となりました。

この火災事故後に入社した従業員も増えてきていますが、全従業員に事故や労働災害に対する危機意識を維持・継続していくことは重要です。そのため、「安全はすべてに優先する」という意識のもと、引き続き従業員への教育・啓蒙や設備の検証を行い、安全文化の醸成を図ってまいります。

安全活動の報告

一部の活動をご紹介します。

2グループに分かれて消火訓練を実施

消火器を使用しての噴射訓練を実施

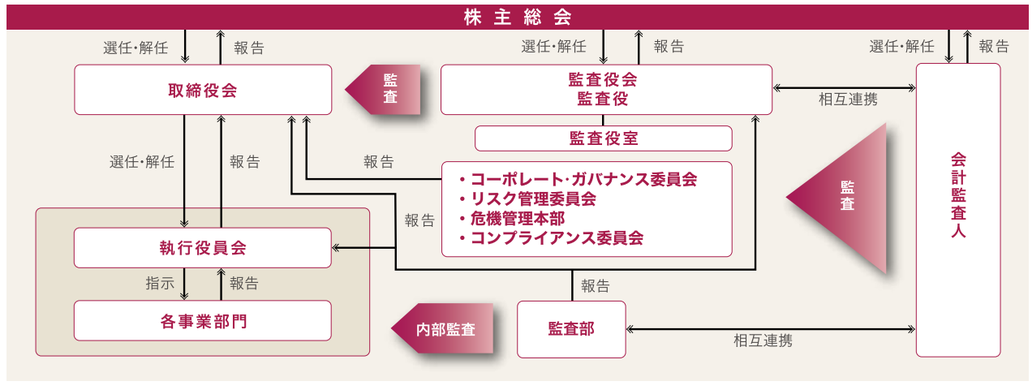
担架により搬送訓練を実施

敷地外への流出を防止するための緊急遮断弁の操作手順講習を実施

密を避け、複数のグループに分かれてコアタイムプログラムの資料動画を視聴

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制図



ステークホルダーの皆様から信頼され、評価される経営を目指す高砂香料グループは、経営判断の適正性・経営のチェック機能および情報開示による経営の透明性を高めることに努め、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会では、「内部統制システムに関する基本方針」を定めています。取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速性を確保するため、執行役員制を導入し、取締役会の企業統治機能と執行役員による業務執行の分化を図っています。

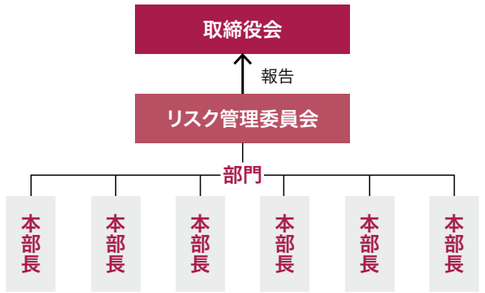
当社が東京証券取引所に提出している「コーポレート・ガバナンス報告書」は、ウェブサイトで公開しています。

https://www.takasago.com/ja/aboutus/governance.html

リスク管理委員会

リスク管理委員会は取締役社長を委員長として各本部長によって構成され、取締役会が損失／危険につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、マネジメント体系を強化し継続的な審議、影響の回避や軽減を図る対策を立案することを目的としています。

リスク管理委員会体制図



在宅勤務におけるサイバーセキュリティ対策

高砂香料グループでは、社内システムのセキュリティを損なうことなく在宅勤務を実現するため、以下の対応を行っております。

自宅から社内ネットワークに接続する際は、専用線（VPN）を使用して複数の認証方式を組み合わせることにより不正な接続を防ぎ、外部へのインターネット接続には、クラウド型システムを経由することにより、セキュリティポリシーに基づく安全にインターネットにアクセスできる環境を構築しております。最新のセキュリティパッチ適用やアンチウイルスの自動更新も、社内と同様に在宅勤務環境下でも実施しています。また、マイクロソフト社の法人向けTeamsやSkype、その他Web会議アプリなども詳細ルールを設定して活用することにより、安全性を担保した上で円滑なコミュニケーションを図れるようにしています。

当社が想定するリスクには、以下を含みます。

リスク項目	関連するリスク	主要な取り組み
気候変動によるリスク	●温室効果ガスによる地球温暖化が引き起こす気候の変動ないし極端現象、あるいは不規則周期に訪れる天候不順が天然原料の調達に影響を及ぼし、原料価格の高騰を招く可能性 ●夏場の天候不順によって高砂香料グループの主力である飲料用フレーバーの販売量が左右される可能性	●グローバルなネットワークを活用し、複数社購買等を推進するとともに、調達手段の多様化を推進 ●飲料用フレーバー以外のポートフォリオの強化
為替レートの変動	●為替レートの変動による円換算後の海外連結子会社の個別財務諸表を取り込んだ連結財務諸表が影響を受ける可能性 ●外国通貨建て取引が受ける為替変動により業績に影響を及ぼす可能性	●グローバル展開により、円、米国ドル、ユーロ、人民元等への分散 ●為替変動を織り込んだ収益計画
事業のグローバル化によるリスク	●テロ・戦争等の政治的・経済的混乱、感染症の蔓延等の社会的混乱などによる、現地の生産活動や販売活動への影響を及ぼす可能性 ●グローバルな競合他社とのグローバル得意先からのコアサプライヤー認定獲得競争により、業績に影響を及ぼす可能性	●進出国の情勢の分析と情報収集 ●競合に対する差別化、技術、サービスの向上
販売に係るリスク	●天災、消費者嗜好、その他重大な変化により販売に困難が生じる可能性	●消費者嗜好性を含めたマーケット分析の強化
事故・災害に係るリスク	●自然災害や火災、爆発等の災害事故、感染症パンデミック等により事業活動に支障が生じる可能性 ●高砂香料グループだけでなく、原料サプライヤー等の設備の火災等による損失により、原料価格の高騰を招く可能性	●事故等への従業員の意識を向上させ、災害予防のための施策を実施 ●感染症等予防の施策およびリスク分散の徹底
新製品の研究開発に係るリスク	●消費者の潜在的なニーズを予想して新製品の開発を行っているが、研究開発の遅延や消費者の嗜好性やニーズ等の変化により影響を受ける可能性	●オープンイノベーションによる外部との連携を図り、多面的な研究開発力を強化
情報セキュリティに係るリスク	●不正アクセスやコンピュータウイルスの感染などにより、コンピュータシステムにおいて運用されている業務運営に必要な各種情報の漏洩、改ざん、消失が生じる可能性や、コンピュータシステムの一時的障害が生じる可能性	●従業員への研修強化を図るとともに、ITセキュリティを強化
経済情勢等に係るリスク	●日本や海外の主要市場における将来の景気の後退または減速等の経済不振が高砂香料グループの製品に対する購買力や消費者需要に悪影響を及ぼす可能性 ●低迷する経済情勢のもとで、消費者が嗜好品等の買い控えを行う可能性	●ポートフォリオの拡充による分散 ●主要ビジネスの基盤を強化し、経済不振等に対する耐性を強化
法令の遵守に係るリスク	●グローバルな事業を展開する上で、各国における製品の品質、安全・環境、化学物質、または会計基準や税法、労務、取引等さまざまな関連法令に適応しているが、現行法令の変更や新たな法令などが追加された場合、事業活動の制限、対応のための投資など、業績に影響を及ぼす可能性	●従業員への研修強化 ●現在の法令遵守について従業員への啓蒙はもとより、将来の方向性を見据えた体制整備
人材に係るリスク	●グローバルに事業を展開する上で、さまざまな人種・国籍や文化を持つ従業員が働いており、その多様性を尊重した組織能力向上を目指しているが、人材を十分に確保・育成できない可能性	●モノ作りを重視するアジア発のグローバル香料会社の従業員として、技術立脚の精神に基づく教育の実施
製品品質に係るリスク	●グローバルな事業を展開する上で、さまざまな製品を製造販売しており、これに対するクレームやリコールによる金銭的損失の他、悪意ある異物混入、物流上の破損、ヒューマンエラーによる工程内不適合により得意先等ステークホルダーからの信用を損失する可能性	●製造現場での作業ルールの徹底 ●当社グループのビジネスへの信頼の原点となる品質管理に対しては、現在同様、従業員への研修を進めるとともに、今後も管理体制の強化に注力

危機管理本部

高砂香料グループでは、緊急を要する有事の際に、本社と国内外拠点が迅速に対応できる体系整備を進めております。重要な指揮・命令がスムーズに伝達できるよう、危機管理本部（本社に設置）と国内外拠点を結ぶ報告・指示ルートの見直しを定期的に行っております。

また、大規模災害や緊急事態などの発生リスクに備え、高砂香料グループでは国内外拠点に標準化したBCP（事業継続計画）の手順整備・策定に取り組んでおります。

コンプライアンス体制

コンプライアンス体制

コンプライアンスを経営上の重要な課題と認識し、公正かつ適切な企業活動の展開やコーポレート・ガバナンスを充実させていく中で、体制の継続的な改善を図っています。

企業憲章および行動規範で法令や社会規範の遵守を掲げるとともに、取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設け、重要事項を審議・立案・推進するなど、コンプライアンスに関連する制度や諸規定を整備しています。また、監査部においては適正な業務運営に対する業務監査を、安全統括本部においては労働安全衛生・環境保全・保安防災に関する監査を実施し、それぞれ関連する法令への適合性を含めた監査としています。

ホットラインの設置

職制や個人での解決が困難なコンプライアンスに関するさまざまな問題について、内部通報制度を通して対応し、倫理や法令の遵守に努めています。

国内（関連会社含む）においては、従業員（出向者を含む）、パート従業員、関連会社の従業者など、当社の業務に従事するすべての者が利用できる相談窓口「明日への窓」を設置しています。海外拠点におきましても従業員のみならずお取引先様などステークホルダーの皆様がご利用いただける「コンプライアンスホットライン」を設置し、オフィスでの掲示やお取引先様へのご案内を行うなど利用者への制度の周知も行っております。

e-ラーニング研修

コンプライアンスの浸透・強化の一環として、定期的なe-ラーニング教育を実施しています。2020年度のコンプライアンス（腐敗行為と贈収賄防止等）に関する研修を受けた従業員（高砂香料グループ全体）の割合は8.6%、差別および人権侵害の防止に関する研修を受けた割合は19.9%でした。2020年度は主に研修実施の準備を行っておりました。2021年には既にハラスメントに関する研修、贈収賄防止研修（管理職対象）、コンプライアンス研修を実施済みです。2021年度の受講率は2022年の報告書でご報告いたします。

人権に関する取り組み

高砂香料グループは、人権や労働に関する普遍的原則に基づく国連グローバル・コンパクトへ署名をしており、人権を尊重した事業活動を進めています。

2018年に改定した企業憲章・行動規範においても「人権の尊重」についての項目を加え、企業としての姿勢をより明確にして、社内においても人権についての意識の浸透を図っています。この取り組みをより推進するため、高砂香料グループ人権方針を作成し、2019年末には事業活動の人権への影響を抽出・予防・緩和していく「人権デューデリジェンス」の仕組みを構築し継続的に実施しています。

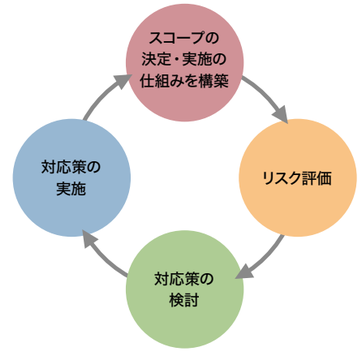
2020~2021年の取り組み

2021年3月に高砂香料グループ人権ポリシーを改定いたしました。これは、多岐にわたる人権課題を整理し「人権に関する重点課題」として考え方をまとめ同ポリシーに付記したものになります。この重点課題への考え方を高砂香料グループサプライヤー行動規範にも反映させており、サプライチェーン全体への人権に関する取り組みの浸透を図っております。

2020年12月には、一般社団法人　ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン（アスク）に正会員として加盟いたしました。専門分野における知見や最新の情報を取り入れながら人権課題についての理解をより一層深めてまいります。

人権デューデリジェンスにおいても、2020年度は、すでに構築した方法に加えて、本社より複数の拠点とTV会議を通して状況確認を行うなど掘り下げた取り組みも行っております。2020年度の人権デューデリジェンスの結果として、高砂香料グループ全拠点において人権侵害にかかわる行為が行われていないことを確認しました。

人権デューデリジェンスのプロセス



プロセス	具体的内容
❶スコープの決定・実施の仕組みを構築	高砂香料グループにおける5つのステークホルダーを、人権に関する影響が発生するスコープと設定。 実施するための仕組みづくりとして、経団連「人権デューデリジェンス実行の手引き」をもとにチェックリストを作成、高砂香料グループ全拠点へ目的等も含めた説明を実施。
❷リスク評価	各拠点にてリスク評価を実施。 実施後、各拠点よりチェックリスト・確認書をコーポレート本部に提出。
❸対応策の検討	特定されたリスクの低減のための仕組みを整備、対応策の検討。
❹対応策の実施	③で策定した対応策の実施。

リスク評価方法

1. チェックリストに沿い、各拠点にてインタビュー形式にてリスク評価を実施
   - 人事部長
   - ●人事 ●EHS ●オペレーション ●IT ●品質保証 ●研究開発
   - ※本社においてはリスク評価範囲を、本社での事業活動に加え、グローバル機能についても確認を行う
   - ※上記部署は一例です。各拠点の体制によってことなります
2. 実施結果を拠点長へ報告。拠点長は確認書にサインをする
3. チェックリスト、確認書を事務局へ提出

特定の拠点においては❶インタビューに加え、関連部署責任者出席のもと、ビデオ会議にて本社とのインタビューを実施

対応策の検討・報告

- 評価結果の分析、必要に応じて面談等を行い追加調査を実施
- 対応策の検討
- 対応策の実施
- リスク評価結果を取締役会に報告

column

香りの器
～高砂コレクション®

創業100周年を記念した展覧会「香りの器～高砂コレクション」が三重、東京、京都、秋田の4会場で開催されました。

本展では、当社のコレクションより、香りに関する選りすぐりの品々約230点を展示し、香りの歴史と文化をご紹介しました。古代オリエントやギリシアの香油瓶から、マイセン、セーブルなどヨーロッパの名窯で作られた18～19世紀の陶磁器製香水瓶、ガレ、ドーム兄弟、ラリックなど有名作家による香水瓶、20世紀ヨーロッパのデザイナー香水瓶やポスターなどが展示されました。また、蒔絵や螺鈿などが施された江戸時代の香道具や名家に伝来した香木、明治以降の工芸家が製作した香炉など、日本の伝統的な香り文化を伝える作品が展示され、古今東西の「香りの器」が一同に会す展覧会となりました。

香りのイベントとしては、三重県立美術館において、講座「香水の世界―香りに親しむひととき」を行い、フレグランス研究所の岡島が講師を務めました。コロナ禍での開催でしたが、十分な感染対策を行って実施することができました。参加者からは、「いろいろな香りを体験できて楽しかった」、「香りについて詳しく知ることができた」などのご意見を多数お寄せいただきました。秋田市立千秋美術館では、同様の講座をオンラインで行い、参加者から好評を博しました。また、パナソニック汐留美術館での開催中には、NHK　Eテレ「日曜美術館アートシーン」で当展覧会が美しい映像とともに紹介されました。

この展覧会で、多くの方に香りの歴史と文化の流れの一端をご覧いただきましたことを深く感謝申し上げます。今後ともより多くの方に香りの文化をお伝えできるよう努めてまいります。

［開催館と開催日］

三重県立美術館	2020年9月19日～12月13日
パナソニック汐留美術館	2021年1月9日～3月21日
美術館　えきKYOTO	2021年6月12日～7月4日
秋田市立千秋美術館	2021年7月17日～9月5日